学科コード	N1
3 I'I — I	111

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	担任	
科目名	総合演習1		必修•選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義·演習	年次	1
総授業数(予 定)	20コマ	授業場所	教室•各実習室	前•後期	前後期
企業連携科目		実務経験	実務経験のある教員等による授業科目		

◆到達目標 一般教

一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。

◆概要

クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。

2. 授業内容 (週単位で記入)

第1週

一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認

第38週

クラス、学校行事及び計画 等

3. 履修上の注意

出席時間数等は授業内で指示します。

4. 使用教材(テキスト等)

学生の手引き等

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出席時間、取り組みにより評価

6. その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

総合演習1 1

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス

学科コード N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング 1		必修·選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	MIT普通教室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 希望する業種・職種で職を得るために、効果的で適正な就職活動を行うべく、実務的な準備(履歴書作成など)とキャリア教育(各種自己分析など)を通じて実践的なレベルを目指す。

◆概要 自己分析を通じて自分のゴールを再度確認する。履歴書は自らの歴史と自分自身をPRするものなので、広義のとなる。また、実際の就職活動により密着した自己PRや仮の志望動機も作成してみる。

2. 授業内容(— · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第1週	「キャリア」とは、2年間の心構え、卒業生の内定先・就活について、「振り返り」
第2週	ライフライン分析とキャリアパス
第3週	「職業興味と職業適性」
第4週	履歴書作成① 履歴書とは、履歴書左側を記入・作成
第5週	履歴書作成② 履歴書右側を記入・作成「ジョハリの窓」
第6週	履歴書作成③「エゴグラム」 自己PR作成
第7週	履歴書作成④「能力と適性」 自己PR作成
第8週	履歴書作成⑤「良いところさがし」自己PR作成
第9週	中間テスト模擬履歴書の作成
第10週	企業研究①こんな仕事をしてみたい、雇用条件は
第11週	企業研究②(求人票を使って)求められる人材とは
第12週	履歴書作成⑥ 仮志望動機の作成
第13週	履歴書作成⑦ 仮志望動機の作成
第14週	履歴書作成⑦ 仮志望動機の作成
第15週	一般教養とSPI
第16週	一般教養とSPI
第17週	期末テスト 履歴書の作成

3. 履修上の注意

筆記用具を持参

4. 使用教材(テキスト等)

プリント教材

5. 単位認定評価方法
評価基準: 絶対評価OR相対評価
絶対評価で中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容
6. その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科コード N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	堀内 貴彦			
科目名	情報リテラシー1		必修•選択	選択必修			
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1		
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内•普通教室	前∙後期	前期		
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目			
1. 授業の到達目 ◆到達目標 ◆概要	パソコンの基本的なトラブルシューティングができる マイクロソフトWORDでビジネス文書の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「ワープロ検定3級」および「文書デザイン検定3級」以上の検定合 を目標とする						
₹ (1)2. 授業内容 (1)	による文書作成およ に応じた級の検定を	び基本的なトラブル			0月に個々の習熟度		
2. 按未內谷()	回年位で記入) 「タッチタイピングの基	本および日本語文	<u></u> 章入力				
第1週	Windows、Wordの基	本操作およびトラブ					
第2週	ワープロ検定3級程 個別問題演習						
第3週	ワープロ検定準2級 個別問題演習 	フープロ検定準2級程度の問題解法 固別問題演習					
第4週	ワープロ検定2級程 個別問題演習	度の問題解法					
第5週	ワープロ検定準1級 個別問題演習	程度の問題解法					
第6週	ワープロ検定1級程 個別問題演習	度の問題解法					
第7週	ワープロ検定問題演習熟度に応じた級別						
第8週	中間試験 ワープロ検定準2級	程度の問題					
第9週	ワープロ検定問題演習熟度に応じた級別						
第10週	ワープロ検定問題演習熟度に応じた級別						
第11週	ワープロ検定問題演 級別ワープロ検定権						
第12週	問題演習およびワー	-プロ検定					
第13週	文書デザイン検定3 個別問題演習	級および3級程度の	問題解法				

第14週	文書デザイン検定3級および2級程度の問題解法 個別問題演習
第15週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 個別問題演習
第16週	文書デザイン検定1級程度の問題解法 個別問題演習
第17週	期末試験 文書デザイン検定2級程度の問題

3. 履修上の注意

授業課題の提出あり(MITファイルサーバへ)

欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する

4. 使用教材(テキスト等)

マイクロソフトWord 授業配布プリント 検定過去問題のプリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:

絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)40点、 中間または期末試験評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点 ※注

6. その他

※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある

情報リテラシー1

5

4. 使用教材(テキスト等)

当 41-1 15	NIH
子イキナ┙━ト	IN I

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	上條		
科目名	動物看護学概論		必修·選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次	
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前∙後期	前期	
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目					
1. 授業の到達目 ◆到達目標	的と概要 動物看護の基本となる概念と動物看護の提供体制について理解する。また、獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理・国家資格化までの軌跡について学び、専門職としての社会的責務を理解 し職業意識を形成する。					
◆概要)動物看護師の理解 助物看護師としてどう		
2. 授業内容 (週	単位で記入)					
第1週	動物看護の基本概	念				
第2週	動物看護の基本概	念				
第3週	動物看護の基本概	念				
第4週	動物看護者の倫理	綱領				
第5週	動物看護者の倫理	綱領				
第6週	動物看護者の倫理	動物看護者の倫理綱領				
第7週	動物にとっての健康	動物にとっての健康・福祉・QOL				
第8週	中間試験					
第9週	愛玩動物看護師の	愛玩動物看護師の職域・職務範囲 役割				
第10週	愛玩動物看護師の	職域・職務範囲 役	:割			
第11週	動物看護の提供体	制一次診療、二次	7診療、救急獣医療	の役割		
第12週	動物看護の提供体	制 インフォームドコ	コンセント、セカンドス	トピニオンについて		
第13週	職場における労働	安全衛生、危険の防	5止·対処法			
第14週	愛玩動物看護師の社会的立場					
第15週	愛玩動物看護師の社会的立場					
第16週	愛玩動物看護師の社会的立場					
第17週	期末試験					
3. 履修上の注意 動物看護の基本(土台)となるため、事	後学習をきちんと行	うこと。			

愛玩動物看護師カリキュアム準拠教科書4巻(デュワードプレス) 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%

6. その他

動物看護師になるにあたって学び得た知識と、日本動物看護職協会の倫理綱領をもとに、実務経験も踏まえた職業倫理や社会的責任等について説く。

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス				学科コード	N1
学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	梶ヶ谷	
科目名	動物形態機能学 1		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	1
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	普通教室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			0

- ◆到達目標 動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を 細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立 する。
- ◆概要 原則的に教科書に沿った形で授業を進行し、わかりにくい部分を補足的に板書で解説する。これにより自力で教科書を読み解く力が身に付くはずである。

(週単位で記入)
生命のすがた 細胞、上皮、腺、器官など(1)(2)
生命のすがた 細胞、上皮、腺、器官など(3)(4)
血液と造血器 血液の性状、各種の血球、凝固系(1)(2)
血液循環と調節 心臓、血管、心臓周期、循環の調節(1)(2)
血液循環と調節 心臓、血管、心臓周期、循環の調節(3)(4)
血液循環と調節 心臓、血管、心臓周期、循環の調節(5)(6)
生体の防御機構 概要・自然免疫(1)(2)
生体の防御機構 獲得免疫(3)(4)
脳神経系 中枢神経系(1)(2)
脳神経系 末梢神経系(3)(4)
感覚と情報伝達(1)(2)
感覚と情報伝達(3)(4)
からだの支持と運動 体位、方向、区分
骨格系と骨の構造(1)(2)
筋系(1)(2)
復習講義(1)(2)・予備日
最終評価試験

3. 履修上の注意

- ・授業では図などの板書が多い為、イラストを描きやすいノートを用意する事。
- ・複数週にわたって一つの臓器を学ぶことがある為、欠席した場合には次の授業までに自己学習しておく 事。
- ・事後学習として授業の復習を必ず行う事。

4. 使用教材 (テキスト等)

テキスト:愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻 動物形態機能学 パワーポイント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出席状況および筆記試験結果の総合評価

6. その他

講師:現職は日本獣医生命科学大学名誉教授。同大学獣医学部獣医保健看護学科(動物看護師養成学科)及び獣医学科において形態学系と病理学系、野生動物学系の教育実務を経験してきた。獣医師・獣医学博士。

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス

学科コード N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	福澤 美雪	
科目名	動物感染症学1		必修·選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内·普通教室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験	実務経験のある教員等による授業科目		

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標

伴侶動物のイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。

感染症を予防するためには、感染症の発生機序、原因となる病現地についての理解が必要である。感染の成り立ちについての理解が必要である。動物感染症学1では、感染・発症の定義、感染の成り立ちについて学習し、主にイヌやネコに感染する微生物(細菌・真菌・ウイルス等)について性状と構造、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。

◆概要

微生物(細菌・ウィルス・真菌・リケッチア・クラミジア等)の分類、生物学的特性、伝播様式や発祥のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を習得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。

2. 授業内容	(週単位で記入)
第1週	感染症とは いろんなウイルスや細菌 世界で恐れられる感染症
第2週	微生物の分類と特徴 細菌の分類、形態、増殖、病原性
第3週	微生物の分類と特徴 細菌の分類、形態、増殖、病原性
第4週	微生物の分類と特徴 細菌の分類、形態、増殖、病原性
第5週	微生物の分類と特徴 細菌の分類、形態、増殖、病原性
第6週	微生物の分類と特徴 細菌の分類、形態、増殖、病原性
第7週	微生物の分類と特徴・ウイルスの分類、形態、増殖、病原性
第8週	微生物の分類と特徴・ウイルスの分類、形態、増殖、病原性
第9週	微生物の分類と特徴・ウイルスの分類、形態、増殖、病原性
第10週	微生物の分類と特徴 真菌の分類、形態、増殖、病原性
第11週	微生物の分類と特徴 真菌の分類、形態、増殖、病原性
第12週	微生物の分類と特徴 リケッチア クラミジア
第13週	微生物の分類と特徴 プリオン
第14週	宿主の感染防御機構
第15週	微生物検査 ウイルス検査
第16週	まとめ
第17週	最終確認試験
3. 履修上の注	<u> </u>

事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる グループでテーマ検討・発表をする場合もある 事前学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第3巻 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ・課題発表(中間・期末) 70%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が知っておかねばならない微生物やウイルスの特徴とその病原性、宿主の免疫機構などについて指導する。

学科コード N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	得地 ひな乃	
科目名	動物感染症学2		必修∙選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験の	のある教員等によ	る授業科目	0
1. 授業の到達目					
●到達目標		らの知識を予防と		症状及び診断方法 こ、飼い主に対して智	と有効な駆虫薬に 寄生虫予防の大切さ
◆概要	検査や診断、衛生を			生活環等について覚 する。	が、寄生虫疾患の
2. 授業内容 (週					
第1週	寄生虫学概要				
第2週		三活環、生殖法、感	染経路、病害と反応	· 等	
第3週 第3週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生	⋸活環、生殖法、感	染経路、病害と反応	、 等	
第4週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生	: E活環、生殖法、感	染経路、病害と反応	5 等	
第5週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生	: E活環、生殖法、感	染経路、病害と反応	· 等	
第6週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生	⋸活環、生殖法、感	染経路、病害と反応	、 等	
第7週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生	⋸活環、生殖法、感	染経路、病害と反応	5 等	
第8週	中間試験				
第9週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生	E活環、生殖法、感	染経路、病害と反応	、 等	
第10週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生	: E活環、生殖法、感	染経路、病害と反応	· 等	
第11週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生	: ∈活環、生殖法、感	染経路、病害と反応	、 等	
第12週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生	: ∈活環、生殖法、感	染経路、病害と反応	· 等	
第13週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生	⋸活環、生殖法、感	染経路、病害と反応	· 等	
第14週	寄生虫の基礎知識 検査と診断、予防対				
第15週	寄生虫の基礎知識 検査と診断、予防対				

第16週	寄生虫の基礎知識検査と診断、予防対策と制御
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

各寄生虫の違いや特徴を把握する必要があるため、必ず授業の復習を行う。

定期的に確認小テストを実施する。

授業以外に課題を課すことがあるが、その際の課題の提出は期限を厳守すること。

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻(エデュワードプレス) 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:相対評価

出欠席数10%、 試験点数70%、 授業態度(積極性等)10%、 課題提出状況等10%をもって評価とする。

6. その他

動物病院勤務時における飼い主様への寄生虫感染予防の指導や院内での予防、駆虫対策の知識と経験を活かし 授業を行う。

学科コード N1

		•			
学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	得地 ひな乃	
科目名	動物看護·動物愛護	•適正飼養関連法規	必修•選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験の	ある教員等によ	る授業科目	0
1. 授業の到達目的 ◆到達目標	各法律と愛玩動物	看護師の関わりにつ 動物の共生のため(動を具体的に理解する	3 .
◆概要	役割や人と動物の 動物関連法規の関 えられるようにする	共生の在り方を理解 係する裁判での実際 。 いて学ぶ前に、動物	する。 祭の判例等を紹介	とで、社会における愛 することで、法律を身: のような決まりが必要	近なものとして捉
2. 授業内容 (週.	単位で記入)				
第1週	動物関連法規オリ		聿の概要、法と愛廷	元動物看護師の関わり	J
第2週	動物看護関連法規 法律概論(法の体系	! 系について、制定とd	女廃のしくみ)		
第3週		(愛玩動物看護師法 護師の定義等(免許、		IJ)	
第4週	動物看護関連法規 獣医師法概要、獣	(獣医療関連行政法 医療法概要	規)		
第5週		(公衆衛生行政法規 、感染症の予防及(対する法律、狂犬病	 予防法
第6週					
第7週	_				
第8週	動物看護関連法規 薬機法、麻薬及びI	(薬事行政法規) 向精神薬取締法、毒	物及び劇物取締治	去概要	
第9週	前期中間試験				
第10週		養関連法規(愛護・適 理に関する法律概望		去規)	
第11週	対のマタラスの日	エーステ の本件例3	~		
第12週					
第13週		連行政法規、社会福		≣法規) 障害者補助犬法/目的	り、定義、補助犬の

第14週	動物愛護・適正飼養関連法規(社会福祉行政・環境衛生法規) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律/化製場等に関する法律
第15週	動物愛護・適正飼養関連法規(野生動物等に関する法律及び条約) 外来生物法、ワシントン条約、種の保存法、鳥獣保護管理法、ラムサール条約、 自然公園法、文化財保護法概要
第16週	
第17週	前期期末試験

3. 履修上の注意

教科書と資料を併用して進める。

過去に起きた裁判の事例などを紹介することで興味を持たせる。

定期的に確認小テストを行う。

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻(エデュワードプレス)

補助プリント

愛玩動物飼養管理士2級教本‧課題問題集

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

•出欠席数10%、 試験点数70%、 授業態度(積極性、課題提出)20%

6. その他

動物病院勤務時における法律遵守の徹底や、飼い主様への説明・指導の経験を活かし授業を行う。

学科コード N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	上條		
科目名	公衆衛生学1		必修∙選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次	
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	前期	
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0	
1. 授業の到達目	的と概要					
◆到達目標	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症につて学び、動物のみならず人の健康の維持・増進 や疾病の応用について理解し、指導することで人と動物の健康な関係構築に寄与する。					
◆概要	動物や人をとりまくて人医療の観点か		⊦人獣共通感染症の	危険性、感染経路、	予防対策につい	
2. 授業内容 (週	単位で記入)					
第1週	公衆衛生の概要	公衆衛生の目的				
第2週	公衆衛生の概要	公衆衛生の目的				
第3週	公衆衛生の概要	公衆衛生行政につ	いて			
第4週	公衆衛生の概要	国民衛生の動向				
第5週	公衆衛生の概要	OneHealthと獣医療	寮の関係			
第6週	公衆衛生業務にお	ける動物看護師の行	役割の理解(飼い主	指導へ活かす方法)		
第7週	公衆衛生業務にお	ける動物看護師の行	役割の理解(飼い主	指導へ活かす方法)		
第8週	中間試験					
第9週	疫学と疾病予防	感染の成立につい	て(疾病・健康障害の	の発生要因)		
第10週	疫学と疾病予防					
第11週	人獣共通感染症と	対策				
第12週	人獣共通感染症と 狂犬病予防(発生	対策 地域・発症機序・予	防法・予防の重要性	Ė)		
第13週	人獣共通感染症と 狂犬病予防(発生	対策 地域・発症機序・予	防法・予防の重要性	Ė)		
第14週	人獣共通感染症と 狂犬病予防(動物					
第15週	人獣共通感染症と	対策				
第16週	人獣共通感染症と	対策				
第17週	期末試験					
3. 履修上の注意						
事後学習として授	業の復習を必ず行う	らこと。				

事後学習として授業の復習を必ず行うこと。 学習課題について提出期限を厳守すること。

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュアム準拠教科書5巻(デュワードプレス) 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%

6. その他

講師:公衆衛生の順守を社会的役割として求められている動物病院での実務経験と、動物公衆衛生に関して得た知識を活かし授業を行う。

学科					
<専攻>	動物看護師学科		担当者	本橋 知果	
科目名	愛玩動物学1		必修•選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内·普通教室	前∙後期	前期
企業連携科目		実務経験の	Dある教員等によ	る授業科目	0
1. 授業の到達目 ◆到達目標		また知し その活用に	-ついて珊般オス:	また、動物福祉をふ	まった 飼育管理法
▼封建日保	の習得、健康診断の		することで、動物の	健康保持・増進を補	
◆概要		品種、使役動物の別	歴史や役割、適切な	:飼養管理方法につ	いて理解する
2. 授業内容 (週	単位で記入)	61\ =A			
第1週	愛玩動物飼養管理 伴侶動物の定義 終生飼養について	松誦			
第2週	犬の歴史と代表的: その特徴や活用	な品種、			
第3週	血統と血統書についての理解				
第4週	使役動物 使役動物とは				
第5週	補助犬について				
第6週					
第7週	犬の適切な飼養管理方法				
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	猫の歴史と代表的	な品種			
第11週	その特徴や活用				
第12週					
第13週	猫の適切な飼養管	理方法			
第14週					
第15週	動物の基本的な取	扱い			
第16週					
第17週	期末試験				

教科書だけではなくその他資料を使いながら行っていく グループワークなども検討しているためグループでは積極的に動くこと 課題等の提出もあるため事後学習を行いきちんと提出すること

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第6巻

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う

6. その他

講師:動物病院での経験を活かし、教科書の知識だけではなく飼い主様への適切な飼育の説明ができるようになるなど知識を詰め込むだけでなく実際の現場をイメージした授業を展開していく

224.7.1 1.0	
字科コート	N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	福澤	
科目名	動物行動学 I		必修·選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義·実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習棟	前•後期	
企業連携科目		実務経験の	のある教員等による	る授業科目	0

◆到達目標 犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。 犬と猫の発生起源、進化の過程、種類による特徴、行動学的特徴を知り、また基本的行動様式

大と畑の発生起源、進化の過程、種類による特徴、行動学的特徴を知り、また基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、動物の看護と飼い主への指導

に活かす。また、正しいハンドリングに必要な学習理論を理解する。

◆概要

ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるため、獣医療に関わる者は、動物行動を的確に理解し、ヒトと動物の間の絆としての役割を持つ必要がある。動物看護師が必要とする獣医学的な知識の中に動物行動学が取り入れられることは、動物の身体的な健康の保持に加えて、心理的な健康の大切さに注目している。『5つの自由』に関連する動物行動学の基礎と応用を適切に学んだ動物看護師が、動物医療の専門職として求められる。

2. 授業内容 (週単位で記入)

第1週 第2週 動物行動学基礎 行動学とは 行動学の歴史 4つの問い(適応・進化・機構・発達) 第3週 指移の行動・習得的行動 脳による行動制御 第5週 神経伝達物質 第6週 大種、描種による行動変化・行動特性 第8週 第9週 個体維持行動 社会維持行動 生殖行動 末10週 ボールスサイン 5つのF 第11週 ボールスサイン 5つのF 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 第15週 第15週 第15週 期末試験						
第2週 4つの問い(適応・進化・機構・発達) 第3週 生得的行動・習得的行動 脳による行動制御 第5週 神経伝達物質 第6週 第7週 犬種、描種による行動変化・行動特性 第8週 第9週 個体維持行動 社会維持行動 生殖行動 ストレスサイン 5つのF 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 第15週 第15週 第15週 第16週	第1週	ᇍᄣᄼᇎᇌᄴᇦᅚᅓᅟᄼᇎᇌᄴᆡᆚᅟᄼᇎᇌᄴᇰᄧᇎᆏ				
第4週 脳による行動制御 第5週 神経伝達物質 第6週 大種、描種による行動変化・行動特性 第8週 大種、描種による行動変化・行動特性 第9週 個体維持行動 社会維持行動 生殖行動 大・レスサイン 5つのF 第11週 大・猫のコミュニケーション 第12週 大・猫のコミュニケーション 第13週 発達行動学 (新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)および社会化 第15週 第16週	第2週	4つの問い(適応・進化・機構・発達) 生得的行動・習得的行動				
第4週 神経伝達物質 第6週 大・酒の園 大・種、描種による行動変化・行動特性 第8週 第9週 個体維持行動 社会維持行動 生殖行動 ストレスサイン 5つのF 第11週 大・猫のコミュニケーション 第13週 第13週 第14週 発達行動学 (新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)および社会化 第15週 第16週	第3週					
第6週 大種、描種による行動変化・行動特性 第8週 大種、描種による行動変化・行動特性 第9週 個体維持行動 社会維持行動 生殖行動 ストレスサイン 5つのF 第11週 大・猫のコミュニケーション 第13週 第13週 第15週 発達行動学 (新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)および社会化 第16週	第4週					
第7週 犬種、描種による行動変化・行動特性 第8週 第9週 個体維持行動 社会維持行動 生殖行動 第10週 ストレスサイン 5つのF 第11週 犬・猫のコミュニケーション 第13週 第13週 第15週 発達行動学 (新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)および社会化 第16週 第16週	第5週	神経伝達物質				
第8週 第9週 個体維持行動 社会維持行動 生殖行動	第6週					
第9週 個体維持行動 社会維持行動 生殖行動 第10週 ストレスサイン 5つのF 第11週 犬・猫のコミュニケーション 第13週 第14週 第15週 発達行動学 (新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)および社会化 第16週	第7週	犬種、描種による行動変化・行動特性				
第10週	第8週					
第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 第16週 大・猫のコミュニケーション 第13週 第14週 第15週 第16週	第9週					
(第12週 第13週 第14週 第15週 第15週 第16週 第16週 犬・猫のコミュニケーション 第16週 犬・猫のコミュニケーション 第15週 第16週 犬・猫のコミュニケーション 第15週 犬・猫のコミュニケーション 第16週 犬・猫のコミュニケーション スティーション ス	第10週	ストレスサイン 5つのF				
第12週 第13週 第14週 第15週 第15週 第16週	第11週	ナ・猫のコミュニケーション				
第14週 発達行動学 (新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)および社会化 第15週 第16週	第12週	へ・畑ひコミユー・ノ 一 ノコン				
	第13週					
第15週 第16週	第14週					
	第15週	元任日刬子 (初工) 効・炒川物・性女化物・石牛物・吸放物・同酮物/0360性女化				
第17週 期末試験	第16週					
	第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う

授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる

グループでテーマ検討・発表をする場合もある

事前学習として授業外に課題の提出を課すことがある

課題は提出期限を守ること

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第6巻 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ·課題発表(中間·期末) 70%

6. その他

講師:動物病院で動物看護師として、またパピークラスやカウンセリングを実施した経験から、主に犬猫の行動様式、行動の種類とその理由、犬猫の発達、行動学に基づいたトレーニングの必要性などについて指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス

学科コード N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	小山	
科目名	生命倫理·動物福祉	Ł	必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義·演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			0

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 動物愛護や動物福祉(アニマルウェルフェア)、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学 ぶことで、動物に関わる際の福祉を重視した基礎的な概念を構築する。

◆概要 生命倫理、動物愛護、動物福祉、動物の権利について、またその違いについて。動物福祉の基礎となる5R、3Rを理解するにあたり、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物等、日常に関わる愛玩動物以外の動物の福祉についても学ぶ。

2. 授業内容	(週単位で記入)
第1週	生命倫理の概念
第2週	生命倫理と獣医療の関わり
第3週	動物福祉の定義と実際
第4週	動物福祉の定義と実際
第5週	動物愛護と動物福祉 :世界と日本の始まりから近代への愛護運動の歴史と現代における動物愛護の思想と課題
第6週	動物の福祉と動物の権利
第7週	五つの自由について
第8週	中間試験
第9週	愛玩動物の福祉 : 国内外の動物保護の活動と実情
第10週	愛玩動物の福祉 : 殺処分やネグレクト、結果としてのホーダー等の虐待について 生命倫理、愛護、福祉の思想を交え実情と課題について理解し考察する
第11週	愛玩動物の福祉 :適正飼養と福祉上の問題と対策
第12週	災害時の動物福祉
第13週	産業動物の福祉 5Rの原則
第14週	実験動物の福祉 3Rの原則
第15週	展示動物の福祉 環境エンリッチメント
第16週	動物福祉の行動学的指標と生理学的指標まとめ
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

ペットライフケア学科1年生と動物看護師学科1年生の合同授業

4. 使用教材(テキスト等)

パワーポイント資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:相対評価

出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10% をもって評価とする。

6. その他

動物病院における、来院動物、入院動物に対する福祉を実践してきた経験や震災後の動物保護シェルターでのボランティア活動等の経験を活かし、福祉や愛護、動物との共生について授業を行う

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科コード N1

学科					
く専攻>	動物看護師学科		担当者	本橋 得地	
科目名	動物内科看護学1		必修·選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習棟	前•後期	前期
企業連携科目	LL Line TE	実務経験	のある教員等による	る授業科目	0
1. 授業の到達目 ◆到達目標 ◆概要	内科診療の補助に する。身体検査、採 の整理・管理する能 犬や猫の日常的な	『血、投薬、輸液、輸 能力を身に着け、実調	血、画像診断に必 浅での活用を目指す 療の補助に必要な	愛玩動物看護師の行要な検査を理解するす。 まではないでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、また	だけでなく、データ
2. 授業内容 (週	単位で記入)				
第1週	動物の健康保持・均	曽進			
第2週	診察補助に必要な				
第3週	診察室の準備や衛	生管理			
第4週	 診察補助に必要な技術 動物に対する適切な接し方				
第5週	保定法	-61XO/J			
第6週	診察補助に必要な技術 身体検査 アセスメント項目				
第7週					
第8週	7 C7				
第9週	中間試験				
第10週	検査・処置に必要な 注射器の取り扱い	は技術 及び管理の方法 ハ	「イアル アンプル		
第11週	検査・処置に必要な 採血の目的と方法	は技術			
第12週	検査・処置に必要な 穿刺 各種カテー				
第13週					
第14週		レそのエーカいっだい	こついて		
第15週	─輸液に関わる技術とそのモニタリングについて _				
第16週					
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					

器具を扱う際には、操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員間で指導方針を確認し合い授業に臨む。学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮を怠らないこと。

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻

動物看護実習テキスト

予備資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席状況10%・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
- •中間•期末試験70%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得すべき内科学について、また臨床 現場で必要となる内科的看護スキルについて実例も交え指導する。

学科コード	N1
-------	----

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	本橋 知果 得地 ひ	な乃
科目名	動物内科看護学実習1		必修·選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習棟	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0

◆到達目標 衛生管理から、身体検査の手技などを含めた内科診療に必要な手技の習得を目指す。

動物内科看護学で学んだ知識の実践力を身に着けるのみならず、

身体検査から得た結果を取りまとめるなど院内における愛玩動物看護師としての立ち回り等の習得を目指す。

◆概要 犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解し、実践力を習得する

2. 授業内容 (週	単位で記入)
第1週	実習の心得 動物の基本的な取り扱い 安全なハンドリング
第2週	飼育環境整備 入院ケージ整備 消毒 トイレ等の管理
第3週	診察室準備 衛生管理 アル綿
第4週	診察準備 動物の抱き方 診察台での安全管理
第5週	基本的な保定法
第6週	基本的な保定法
第7週	聴診法
第8週	身体検査 全身状態 (意識レベル BCS 粘膜色 体表リンパ節 BW測定)
第9週	中間試験
第10週	
第11週	身体検査
第12週	TPR CRT 脱水評価
第13週	フィジカルアセスメント
第14週	
第15週	 注射器取扱い アンプル バイアル 注射法
第16週	
第17週	期末試験
2 房体トの注音	

3. 履修上の注意

取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。

学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 動物看護実習テキスト 予備資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
- •中間•期末試験70%

6. その他

講師:実例をもとに、現場をイメージした診察準備や入院ケージの準備を実践する。保定や身体検査など基本的な 指導に加え、ありとあらゆるパターンがあることを想定し、説明したうえできるだけ多くの技術を習得してもらうことを 目指す。

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス

学科コード N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	堀内 貴彦	
科目名	情報リテラシー2		必修·選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内·普通教室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 マイクロソフトEXCELでビジネス資料等の作成ができる

日本情報処理検定協会主催の「表計算検定3級」以上の検定合格を目標とする

表計算検定の問題を解きながら、効率的なデータ入力、ワークシート編集、関数を利用した計算式 ◆概要 の入力、グラフ作成等について習得する。2月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。なお、 12月の検定は希望受験とする。

	12月の検定は希望受験とする。
2. 授業内容	(週単位で記入)
第1週	検定問題対策 個別問題演習
第2週	検定問題対策 個別問題演習
第3週	検定問題対策 個別問題演習
第4週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第5週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第6週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第7週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第8週	表計算検定準2級程度の問題解法 個別問題演習
第9週	中間試験 表計算検定準2級程度の問題
第10週	表計算検定2級程度の問題解法 個別問題演習
第11週	表計算検定2級程度の問題解法 個別問題演習
第12週	表計算検定準1級程度の問題解法 個別問題演習
第13週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習
第14週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習

第15週	表計算検定問題演習習熟度に応じた級別の個別問題演習
第16週	表計算検定問題演習習熟度に応じた級別の個別問題演習
第17週	表計算検定(期末試験兼ねる)

3. 履修上の注意

課題の提出あり(MITファイルサーバへ)

欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する

4. 使用教材(テキスト等)

マイクロソフトWord,Excelを使用 検定過去問題のプリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:

絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)40点、 中間または期末試験評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点

6. その他

※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある

> 情報リテラシー2 29

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス				学科コード	N1
学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	梶ヶ谷	
科目名	動物形態機能学2		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	1
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	普通教室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験の	のある教員等による	る授業科目	0
1. 授業の到達	1. 授業の到達目的と概要				

- ◆到達目標 動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、 組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。
- 原則的に教科書に沿った形で授業を進行し、わかりにくい部分を補足的に板書で解説する。これ ◆概要 により自力で教科書を読み解く力が身に付くはずである。

2. 授業内容	(週単位で記入)
	外皮系と体温調節 外皮、皮膚の付属器官、皮膚の体温調節(1)(2)
第2週	外皮系と体温調節 外皮、皮膚の付属器官、皮膚の体温調節(3)(4)
第3週	呼吸とその調節 呼吸器の構造(1)(2)
第4週	呼吸とその調節 呼吸の調節(3)(4)
第5週	内分泌とホルモン(1)(2)
第6週	内分泌とホルモン(3)(4)
第7週	内分泌とホルモン(5)(6)
第8週	消化吸収と栄養代謝(1)(2)
第9週	消化吸収と栄養代謝(3)(4)
第10週	消化吸収と栄養代謝(5)(6)
第11週	消化吸収と栄養代謝(7)(8)
第12週	尿の生成と体液調節 腎臓、尿路、体液・酸塩基平衡(1)(2)
第13週	尿の生成と体液調節 腎臓、尿路、体液・酸塩基平衡(3)(4)
第14週	尿の生成と体液調節 腎臓、尿路、体液・酸塩基平衡(5)(6)
第15週	全体の要点復習講義(1)(2)
第16週	全体の要点復習講義(3)(4)
第17週	期末評価試験

3. 履修上の注意

- ・授業では図などの板書が多い為、イラストを描きやすいノートを用意する事。
- ・複数週にわたって一つの臓器を学ぶことがある為、欠席した場合には次の授業までに自己学習しておく
- ・事後学習として授業の復習を必ず行う事。

4. 使用教材 (テキスト等)

テキスト:愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻 動物形態機能学 パワーポイント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出席状況および筆記試験結果の総合評価

6. その他

講師:現職は日本獣医生命科学大学名誉教授。同大学獣医学部獣医保健看護学科(動物看護師養成学科)及 び獣医学科において形態学系と病理学系、野生動物学系の教育実務を経験してきた。獣医師・獣医学博士。

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス				学科コード	N1
学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	梶ヶ谷	
科目名	動物形態機能学実習		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1
総授業数 (予定)	17コマ	授業場所	実習室	前·後期	後期
企業連携科目		実務経験(のある教員等による	る授業科目	0
4. 拉来办过注口的上框带					

◆到達目標 動物の身体の機能や形態を熟知しておく事は診療業務において重要であるだけでなく、動物や看護者の安全にもつながる。実際の身体の構造や内臓を立体的に学ぶことで、形態機能学を更に深く理解する。

◆概要動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ

2. 授業内容 (週単位で記入)

2. 投耒内谷	(週里位で記入)
第1週	動物のからだの形態と機能を、骨格標本や内臓模型、主要臓器の組織像を通じて習得する。
第2週	細胞標本作製法と観察の基本(1)
第3週	細胞標本作製法と観察の基本(2)
第4週	組織標本作製法と観察の基本(1)
第5週	組織標本作製法と観察の基本(2)
第6週	骨格系と骨の構造(1)
第7週	骨格系と骨の構造(2)
第8週	筋肉の構造
第9週	内臓の配置と意味(メモあり)
第10週	関節の構造と動きの特徴
第11週	肝臓の構造(1)肉眼構造
第12週	肝臓の構造(2)組織構造
第13週	腎臓の構造(1)肉眼構造
第14週	腎臓の構造(2)組織構造
第15週	消化管の構造 (1)肉眼構造
第16週	呼吸器の構造
第17週	最終評価試験

3. 履修上の注意

・スケッチを行うので、無地のノートまたはルーズリーフと色鉛筆を用意する事。

4. 使用教材 (テキスト等)

テキスト:愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻 動物形態機能学 犬・猫模型

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出席状況および筆記試験結果の総合評価

6. その他

講師:現職は日本獣医生命科学大学名誉教授。同大学獣医学部獣医保健看護学科(動物看護師養成学科)及 び獣医学科において形態学系と病理学系、野生動物学系の教育実務を経験してきた。獣医師・獣医学博士。

224 T.1 18	
字科コート	N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	上條	
科目名	動物感染症学3		必修•選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	後期
企業連携科目	//	実務経験のある教員等による授業科目			0

◆到達目標 病原体

病原体の感染経路・伝播様式、感染症の成立要因について深く理解し、予防と看護に活かす。また、あらゆる消毒薬、滅菌法について学び、院内感染の予防や汚染対策につなげる。 微生物学・寄生虫学・免疫学を基盤に、免疫学の基礎・応用として、ワクチンによって得られる免

疫機能の変化、アレルギー反応についても理解し、適切な飼い主指導に役立てる。

◆概要

動物感染症の感染経路・伝播様式、感染症成立要因について学び、衛生管理に必須である、予防対策を習得していく。また、ワクチンの原理と種類、接種プログラム、それに伴う体内での免疫機能の変化、アレルギー反応について理解する。

2. 授業内容 (週	単位で記入)
第1週	病原体の感染経路と伝播様式
第2週	動物感染症の成立要因
第3週	動物感染症
第4週	消毒·滅菌法
第5週	消毒·滅菌法
第6週	消毒·滅菌法
第7週	消毒・滅菌法 院内感染の予防対策
第8週	中間試験
第9週	免疫担当細胞と役割
第10週	免疫学の基礎
第11週	免疫学の基礎
第12週	免疫学の応用
第13週	免疫学の応用
第14週	ワクチンについて 原理と種類
第15週	ワクチンについて 原理と種類
第16週	ワクチンについて 接種プログラムの理解
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行うこと。

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュアム準拠教科書3巻(デュワードプレス) 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数 15% 試験点数70% 授業態度(積極性等)15%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が知っておくべき感染症成立の要因と予防について授業を行い、飼主指導をする上で、知っておくべきワクチン接種についても指導していく。

学科コード	N1
子科コート	IN I

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	得地	
科目名	公衆衛生学2		必修•選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			0

◆到達目標 環境及び食品衛生について学ぶことで人と動物の健康維持・増進や疾病予防への応用について 理解し、飼い主への指導ができるようになる。

◆概要 環境汚染がもたらす生物への影響の歴史についてを学習し、環境衛生の現在と人や動物への 影響を十分に理解する。 また、食品衛生の観点から人と動物の健康と疾病の予防を学ぶ。

2. 授業内容 (週単位で記入) 環境衛生概要 第1週 環境問題の種類 環境衛生問題 第2调 水系問題 第3週 環境衛生問題 生活環境問題 第4週 第5调 環境衛生問題 廃棄物問題 第6週 第7週 環境衛生問題 衛生動物関連 第8週 後期中間試験

第11週 第12週 第13週 食品衛生問題 第14週

食品衛生概要

食品衛生法 等

食中毒と動物性食品の加工・衛生管理について

第15週

第9週

第10週

第16週 後期期末試験

第17週

3. 履修上の注意

環境・食品に関する衛生問題事例を紹介し、これらの問題に対して関心をもてるように授業を進める。

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻(エデュワードプレス) 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

・出欠席数10%、 試験点数70%、 授業態度(積極性、課題提出)20%

6. その他

公衆衛生への配慮が求められる動物病院での実際の衛生管理・疾病予防の経験を活かし授業を進める。

学科コード N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	福澤	
科目名	動物行動学Ⅱ-1		必修·選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内·普通教室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標

今までに習得した行動学の知識を基に、行動を作る学習理論と基本的なトレーニング法について理解 する。また、犬猫で発現する主な問題行動における、問題行動の種類や治療法、トレーニング法に ついて理解し、問題行動を予防するための環境エンリッチメントなど、適切な飼育管理法についてさ らに理解する。

◆概要

動物がどのように学習するのか、『学習の起こる仕組み』と『脳の特徴』について学ぶ。 問題行動の種類と治療法、分離不安等に使用する薬剤、問題行動予防と行動の修正について学ぶ

2. 授業内容	(週単位で記入)
第1週	しつけ・トレーニングの理論と応用 学習理論
第2週	しつけ・トレーニングの理論と応用 学習理論
第3週	しつけ・トレーニングの理論と応用 学習理論
第4週	基本的トレーニング法
第5週	基本的トレーニング法
第6週	基本的トレーニング法
第7週	基本的トレーニング法
第8週	中間試験
第9週	問題行動総論 定義 要因(遺伝的 生得的 環境)
第10週	問題行動総論 定義 要因(遺伝的 生得的 環境)
第11週	問題行動総論 定義 要因(遺伝的 生得的 環境)
第12週	問題行動修正と予防 飼い主指導
第13週	問題行動修正と予防 飼い主指導
第14週	問題行動修正と予防 飼い主指導
第15週	行動診療 コンサルテーション 薬物療法
第16週	行動診療 コンサルテーション 薬物療法
第17週	最終確認試験

3. 履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う

授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる グループでテーマ検討・発表をする場合もある

事前学習として授業外に課題の提出を課すことがある

課題は提出期限を守ること

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト4巻

愛玩動物飼養管理士2級教本

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ・課題発表(中間・期末) 70%

6. その他

講師:動物病院で動物看護師として、またパピークラスやカウンセリングを実施した経験から、行動を作る過程と学習の起こる仕組み、問題行動概論について指導する。

学がった。	NI1
字科コート	N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	本橋 知果	
科目名	愛玩動物学2		必修•選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内·普通教室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	5授業科目	0

◆到達目標 エキゾチック動物の歴史と品種を知り、その活用について理解する。また、動物福祉をふまえた 飼育管理法の習得、健康診断の内容、目的を理解することで、動物の健康保持・増進を補助する知識を養う。それらをもとに適切な指導方法など実践で活かせる力を身に着ける

◆概要 犬猫以外の愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する

2. 授業内容 (週単位で記入) エキゾチックアニマルオリエンテーション 第1週 エキゾチックアニマルの定義、飼育する理由・問題点 第2週 ウサギの特徴・生態・飼養管理・疾病 第3调 第4週 フェレットの特徴・生態・飼養管理・疾病 第5週 第6週 第7週 げつ歯類の特徴・生態・飼養管理・疾病 第8週 中間試験 第9週 第10週 愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理・疾病 第11週 第12週 爬虫類の特徴・生態・飼養管理・疾病 第13週 第14週 第15调 エキゾチックアニマルの繁殖生理 第16週 第17週 期末試験

3. 履修上の注意

教科書だけではなくその他資料を使いながら行っていく グループワークなども検討しているためグループでは積極的に動くこと 課題等の提出もあるため事後学習を行いきちんと提出すること

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第6巻 愛玩動物飼養管理士2級教本

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う

6. その他 講師:動物病院での経験を活かし、教科書の知識だけではなく飼い主様への適切な飼育の説明ができるようになるなど知識を詰め込むだけでなく実際の現場をイメージした授業を展開していく

学科コード	N1
-------	----

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	小山 真央	
科目名	動物栄養学1		必修·選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0

◆到達目標 動物の健康管理において、また動物看護業務にとって重要な栄養学の知識を習得し、入院管理や 飼い主指導に活かせるようにする。また、後期に開始する療法食についての学習を理解するにあた り重要な基礎知識をつける。

◆概要 5大栄養素やその代謝など基礎栄養学から始まり、動物の状態に適したフード、摂取カロリーの算 出方法について理解し、栄養を通して健康管理について学ぶ。

2. 授業内容(- · · · · · · ·
第1週	栄養学概要 与えてはいけないもの、中毒を起こす栄養素、ペットフード安全法
第2週	栄養学概要 ペットフードの歴史、AAFCOの基準について
第3週	5大栄養素総論
第4週	5大栄養素の基礎 3大栄養素
第5週	5大栄養素の基礎 3大栄養素
第6週	5大栄養素の基礎 3大栄養素
第7週	6大栄養素の基礎 ミネラル・ビタミン・水分
第8週	中間試験
第9週	6大栄養素の基礎 ミネラル・ビタミン・水分
第10週	6大栄養素の基礎 ミネラル・ビタミン・水分
第11週	エネルギー要求 エネルギー要求量の理解
第12週	エネルギー要求 エネルギー要求量の理解と給与量の算出
第13週	犬と猫の食性、嗜好性、必要栄養素のと種差による相違
第14週	ライフステージに適した栄養要求と適したフードの選択
第15週	フードに関する基礎知識(フードのラベル表示、種類、分類)と栄養指導の要点
第16週	フードに関する基礎知識と栄養指導の要点:栄養状態の評価 手作り食について
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト6巻(ファームプレス) その他

5. 単位認定評価方法

評価基準:相対評価

出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う

6. その他

臨床現場における入院動物の栄養管理や飼い主様からの食事管理の相談など実務を通し得た知識や経験をもとに 授業を行う

学科コード N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	加藤 博史	
科目名	動物臨床検査学 I		必修•選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	座学·実習	年次	1年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	普通教室•実習室	前•後期	後期
企業連携科目	0	実務経験	のある教員等による	授業科目	0

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 様々な臨床検査の原理や方法、意義について、安全かつ正確なデータ取得ができるように理解する。 動物看護における、各種検査の内容を理解し、必要に応じて患者指導等行うことができるようにする。

◆概要 様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。

	ALCE IN TOO
2. 授業内容(词	週単位で記入)
第1週	尿の性状検査について理解する。 尿沈渣の検査法について理解する。
第2週	尿の性状検査について理解する。 尿沈渣の評価方法について理解する。(検鏡像と臨床の関連性を含む)
第3週	CBC検査概要について理解する。
第4週	検査手順、静脈採血・動脈採血および採血部位について理解する。
第5週	CBC検査概要について理解する。
第6週	検査手順、静脈採血・動脈採血および採血部位について理解する。
第7週	血液検体の処理方法について理解する。 血液検体の分離処理(全血、血漿、血清検体の処理)について理解する。
第8週	血算検査について、その原理と方法および検査手順について理解する。
第9週	生化学検査について、その原理と方法および検査手順について理解する。 (肝・胆・膵・腎関連)
第10週	生化学検査について、その原理と方法および検査手順について理解する。 (電解質、脂肪代謝、凝固系関連)
第11週	電解質の評価について、その概要と評価方法を理解する。
第12週	血液ガス、酸塩基平衡について、その概要と評価方法を理解する。
第13週	血球検査における血液塗抹標本の作成法について理解する。
第14週	血液塗抹標本の見方と評価法について理解する。 (白血球、赤血球の評価)
第15週	血液塗抹標本の見方と評価法について理解する。 (異常白血球、血小板の評価)
第16週	血液型と輸血について理解する。 輸血時の注意事項について理解する。

糞便検査における採便法を理解する。

第17调

虫卵・原虫の検出法、細菌の観察法について理解する。

3. 履修上の注意

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 配付資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ・課題発表(中間・期末) 70%

6. その他

講師:放射線技師(ヒト医療における)および動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物病院での臨床検査における動物看護師の役割と必要な知識・手技について指導する。

学科コード N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	本橋 知果	
科目名	動物臨床検査学実	習 I 一1	必修•選択	必修	
単位数	1単位 授業形態		実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習棟	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0
1. 授業の到達目的と概要					
▲ 지 호 다 듄					

- ◆到達目標 検体検査及び生体検査に必要な手技や機器の扱い方、検体の採材方法や処理、保存方法など を含む動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。
- ◆概要 顕微鏡の取り扱い、各種機器の取り扱い、尿検査、糞便検査を実施

2. 授業内容 (週	単位で記入)
第1週	臨床検査概論 検査項目 検体・検体の処理
第2週	顕微鏡各部名称 取り扱い
第3週	尿検査概論 尿とは 採尿法と保定 必要な器具 検体の取り扱いと保存
第4週	尿検査 一般性状検査とその記録
第5週	尿検査 尿検査試験紙 科学的検査とその記録
第6週	尿検査 一般性状検査 尿検査試験紙 科学的検査
第7週	尿検査 尿沈渣 遠心分離機 染色 顕微鏡学的検査
第8週	尿検査 尿沈渣 遠心分離機 染色 顕微鏡学的検査
第9週	中間試験
第10週	尿検査全過程
第11週	糞便検査概論 健康な便 採便法 必要な器材 検体の取り扱いと保存
第12週	糞便検査 一般性状検査 直接塗抹法
第13週	糞便検査 一般性状検査 直接塗抹法
第14週	糞便検査 飽和食塩水浮遊法
第15週	糞便検査 ドライ染色標本
第16週	糞便検査全過程
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。

学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻

動物看護実習テキスト

予備資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
- •中間•期末試験70%

6. その他

講師:動物病院での臨床検査の経験を活かし、教科書には載っていないような手技に関するコツや知識、体験談などを織り交ぜる。また、現場に出て重要なのは、技術はもちろんのこと迅速性も求められるためそういった手技の手本となるよう授業を行う。

224.7.1 1.0	
字科コート	N1

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	上條	
科目名	動物内科看護学2		必修•選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習棟	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0

◆到達目標 内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、院内における愛玩動物看護師の役割について理解 する。輸血、画像診断に必要な検査を理解するだけでなく、その方法、モニタリングについて学 び、同時にデータの整理・管理する能力を身に着け、実践での活用を目指す。

◆概要 犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を身に付ける。また、より高度な検査方法に関する目的や原理について学び、それに伴った保定方法を含め理解していく。

2. 授業内容 (週	単位で記入)				
第1週	輸血に関わる技術と手技、モニタリングについて				
第2週	│ 適応とリスク │ クロスマッチ試験				
第3週	血液型				
第4週	心電図に関わる技術				
第5週	保定方法				
第6週	目的・意義について				
第7週	血圧に関わる技術 測定方法と意義、注意点について				
第8週	各種検査に関する保定法について				
第9週	中間試験				
第10週	 X線検査に関わる技術				
第11週	へ 秋快直1〜 実1ノ公文				
第12週	CT/MR検査に関わる技術 目的と方法				
第13週	日的と方法 撮影体位について				
第14週					
第15週	超音波検査に関わる技術 各モードについて理解				
第16週					
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

器具を扱う際には、操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員間で指導方針を確認し合い授業に臨む。学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮を怠らないこと。

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻

動物看護実習テキスト

予備資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
- •中間•期末試験70%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得すべき内科学について、また臨床 現場で必要となる内科的看護スキルについて実例も交え指導する。

学科コード	N1
子/针-1	IN I

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	本橋 知果	
科目名	動物内科看護学実	習2	必修·選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習棟	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験の	のある教員等による	る授業科目	0

衛生管理から、身体検査の手技などを含めた内科診療に必要な手技の習得を目指す。 ◆到達目標

動物内科看護学で学んだ知識の実践力を身に着けるのみならず、

生体検査の正しい手順を学び、そこから得た結果の取りまとめなど院内における愛玩動物看護 師としての立ち回り等の習得を目指す。

◆概要 犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、採血、投薬、 輸液、輸血、生体検査などについて理解し、実践力を習得する.

2	授業内容	(週単位で記入)

2. 授業内容 (週	単位で記入)
第1週	輸液管理の基礎知識 輸液の意味・必要性
第2週	輸液剤の種類 輸液準備
第3週	
第4週	投薬に関わる技術内服
第5週	外用薬 注射の手順
第6週	投薬の注意事項
第7週	診察補助 採血
第8週	採尿(尿カテーテル)
第9週	中間試験
第10週	輸血 クロスマッチ
第11週	輸血中の動物管理
第12週	心電図
第13週	検査及び結果の記録
第14週	血圧 測定法 記録 注意点
第15週	X線撮影 基本保定法
第16週	放射線防護衣の装備
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 動物看護実習テキスト 予備資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
- ·中間·期末試験70%

6. その他

講師:実例をもとに、現場をイメージした診察準備や入院ケージの準備を実践する。保定や身体検査など 基本的な指導に加え、ありとあらゆるパターンがあることを想定し、説明したうえできるだけ多くの技術を 習得してもらうことを目指す。

専門学校未来ビジ	ジネスカレッジ シラバ	バス		学科コード	N1	
学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	北村/上條/本橋/得地		
科目名	グルーミング実習基礎1		必修·選択	必須		
単位数	3単位	授業形態	講義•実習	年次	1年次	
総授業数(予定)	54コマ	授業場所	実習室	前•後期	後期	
企業連携科目	0	実務経験のある教員等による授業科目				

- ◆到達目標 お手入れに関する知識と技術を学び、グルーミングの基本的な流れを理解し、犬が受け入れられる 扱い方を身につける。
- ◆概要 犬の皮膚トラブルの予防や治療の為、皮膚や被毛の構造を理解し適切なグルーミングを行う。安全にグルーミングを行う為、適切な道具の扱い方、犬の保定やボディーランゲージを知ること。スムーズに作業が進むように周囲と協力が取れること。

2. 授業内容(過	週単位で記入)
第1週	【講 義】グルーミングについて お手入れの手順 犬の保定 道具の場所確認
第2週	デモンストレーション 道具の使用方法 実習の流れについて 準備・後片付けいついて
第3週	グルーミング実習(2年生との合同実習)
第4週	グルーミング実習
第5週	グルーミング実習
第6週	グルーミング実習
第7週	グルーミング実習
第8週	グルーミング実習
第9週	グルーミング実習
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習
第17週	グルーミング実習

3. 履修上の注意

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧のみだしなみ等が適切でない場合、出席を認めない。

挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。

生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。

学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。

国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと。

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第7巻

動物看護実習テキスト

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

・出席による評価 20% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 40%

·中間·期末試験 40%

6. その他

講師:JKCトリマーおよびJAHAしつけインストラクターとしての実務経験者

JAHA家庭犬しつけインストラクターおよびトリマーとしての経験から、グルーミングの流れと技術について、また行動学に基づいた「犬が受け入れられる扱い方」について指導する。

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院で看護師が診察台の上でも行うような、基本的なケア(爪切り・足裏バリカン・耳掃除・ブラッシング)の指導から、薬浴の効果や方法など現場で行うことに、より近づけた指導をする。

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	上條	
科目名	総合演習2		必修•選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	前後期
企業連携科目	// I low	実務経験の	のある教員等による	る授業科目	

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活 ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。

クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。

2. 授業内容 (週単位で記入)

一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等

第38週

第1週

◆概要

3. 履修上の注意

出席時間数等は授業内で指示します。

4. 使用教材(テキスト等)

学生の手引き等

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出席時間、取り組みにより評価

6. その他

総合演習2 54

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス				学科コード	N2·U2
学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	腰原	
科目名	産業動物学·実験動物学1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	普通教室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験	0		

◆到達目標 <u>産業動物学</u>

家畜の生態や疾病の基本を学び、日本の畜産業の現状を知る事を目標とする。

実験動物学

実験動物の目的、生体の特徴やそのコントロールについて理解し、治療法の確立や薬の開発において実験動物が必要とされている背景と現状を知る事を目標とする。

動物看護師の活躍する分野として、産業動物分野への拡がりが期待されている事や、動物福祉 等の正しい知識を持った者が家畜飼育者や実験動物飼育者にも求められるようになっているため、 その分野での社会的認知度を得られる立場となれる事を目指す。

◆概要

産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業などの社会との関わりについて学ぶ。 実験動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物との関わりについて学ぶ。 産業動物や実験動物における動物福祉について学ぶ。

	B × /
2. 授業内容(引	
第1週	産業動物の基礎概論
第2週	馬の歴史と品種、特徴
第3週	牛の歴史と品種、特徴
第4週	
第5週	綿羊・山羊の歴史と品種、特徴
第6週	豚の歴史と品種、特徴
第7週	鶏の歴史と品種、特徴
第8週	馬・牛・綿羊・山羊・豚・鶏の消化器の形態と機能
第9週	
第10週	馬・牛・綿羊・山羊・豚・鶏の性周期と繁殖生理
第11週	
第12週	馬・牛・綿羊・山羊・豚・鶏の飼育施設
第13週	
第14週	馬・牛・綿羊・山羊・豚・鶏の飼養法
第15週	
第16週	動物看護師・動物飼育者としての畜産業との関わり ~現場のはなし~ ※特別講義を予定
第17週	評価試験

3. 履修上の注意

・事後学習として授業の復習を必ず行う事。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト4 動物の行動と健康管理(ファームプレス社)パワーポイント

5. 単位認定評価方法

評価基準:相対評価

出席状況、授業態度、中間・期末試験結果を総合して評価する

6. その他

講師:動物病院(小動物診療・大動物診療)における獣医師としての実務経験者

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビ [・]	ジネスカレッジ シ	[,] ラバス		学科コード	N2		
学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	梶ヶ谷			
科目名	動物病理学		必修・選択	必修			
単位数	1コマ	授業形態	講義	年次	2		
総授業数(予定)	17単位	授業場所	普通教室	前•後期	前期		
企業連携科目		実務経験の	のある教員等による	る授業科目	0		
1. 授業の到達							
◆到達目標	病理学の基礎を学び 細胞レベルでの疾病		-				
◆概要	様々な疾病が組織や	っ臓器にもたらす変 ^ん	化を学び・病態につい	いて理解する。			
2. 授業内容	(週単位で記入)						
第1週	病理学と病理診断・	細胞診断					
第2週	病気の原因と徴候						
第3週	生体の恒常性と疾病	生体の恒常性と疾病と回復					
第4週	細胞の傷害とその変	細胞の傷害とその変化 変性壊死、萎縮					
第5週	組織の増殖と修復	再生、器質化、創傷	の治癒 1				
第6週	組織の増殖と修復	再生、器質化、創傷	の治癒 2				
第7週	循環障害1	循環障害1					
第8週	循環障害2						
第9週	中間試験						
第10週	循環障害3						
第11週	炎症論1						
第12週	炎症論2						
第13週	炎症論3						
第14週	免疫 自然免疫 獲	免疫 自然免疫 獲得免疫					
第15週	免疫異常						
 第16週	腫瘍論1						
 第17週	最終評価試験						

3. 履修上の注意

- ・授業では図などの板書が多い為、イラストを描きやすいノートを用意する事。
- ・形態機能学を理解している事を前提として講義を進めるため復習しておく事。
- ・事後学習として授業の復習を必ず行う事。

4. 使用教材 (テキスト等)

動物看護コアテキスト3(ファームプレス)

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出席状況および筆記試験結果の総合評価

6. その他

講師:現職は日本獣医生命科学大学名誉教授。同大学獣医学部獣医保健看護学科(動物看護師養成学科)及 び獣医学科において形態学系と病理学系、野生動物学系の教育実務を経験してきた。獣医師・獣医学博士。

学科コード	N2

学科					
<専攻>	動物看護師学科		担当者	上條	
科目名	動物看護学概論2		必修•選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標				り提供体制について	

1年次に修得した動物看護の基本となる概念と動物看護の提供体制についてより深く理解する。 また、愛玩動物看護師の国家資格化に伴う、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成、職務範囲について改めて理解する。動物看護過程についてその概要を理解する。

◆概要

動物看護師の資格制度、職域、職務範囲等、職業としての動物看護師の理解と、獣医療の歴史や倫理綱領を通し動物看護師の職業倫理を学ぶことで、動物看護師としてどうあるべきかについて考える。看護過程の目的と意義、概要を学ぶ。

2. 授業内容 (週単位で記入)

第1週	動物看護の基本となる概念
第2週	到物有限の基本とはる拠心
第3週	動物看護技術 動物看護過程の展開
第4週	看護過程作成
第5週	
第6週	
第7週	

第8週 中間試験

第9週 愛玩動物看護師法に基づく職域

第10週

第11週 動物看護過程の展開

チーム獣医療

第12週 入院動物看護

看護動物の個々の情報収集、整理、分類判断

看護過程作成

第14週

第13週

第15週

第16週

第17週 期末試験

3. 履修上の注意

動物看護の基本(土台)となるため、事後学習をきちんと行うこと。 グループディスカッションを行うため、発言と積極性をもって授業に取り組むこと。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト5・6巻(ファームプレス) 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%

6. その他

動物看護師になるにあたって学び得た知識と、日本動物看護職協会の倫理綱領をもとに、実務経験も踏まえた職業倫理や社会的責任等について説く。

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	浅野 智由 遠藤 晴子	
科目名	動物臨床看護学各論1		必修·選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	普通教室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	5授業科目	0

1. 授業の到達目的と概要

- ◆到達目標 ・疾病の原因・症状・治療の選択、また予防について理解する。 ・各疾病の看護ポイントを理解する。
- ◆概要 様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物にどのような看護を提供するべきか、評価と介入の方法を習得する。

2. 授業内容 (週単位で記入) 概論 第1週 診断と診断推論 第2週 問診とフィジカルアセスメント 第3週 第4週 徴候と症状 治療と予防 第5週 特殊検査 第6週 病期、治療計画、誤診 第7週 最終評価試験 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 第16週 第17调

3. 履修上の注意

- ・教科書の沿って講義を進めるが、写真教材などを使用するためipadを用意する事。
- 事後学習として授業の復習を必ず行う事。

4. 使用教材(テキスト等)

テキスト:動物看護コアテキスト6巻

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%

·試験成績(中間·期末) 70%

6. その他

講師:動物病院(小動物診療)における獣医師としての実務経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる 様々な疾病に関する知識、様々な病態における看護について指導する。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	浅野 智由 遠藤 晴子	
科目名	動物臨床看護学各論2		必修•選択	選択	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			0

◆到達目標

- ・疾病の原因・症状・治療の選択、また予防について理解する。
- ・各疾病の看護ポイントを理解する。

◆概要

様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ同陸奥にどのような看護を提供するべきか、評価と介入の方法を習得する。

2. 授業内容 (週単位で記入)

第1週	
第2週	代表的な呼吸器系疾患□イヌとネコの呼吸器感染症・気管の疾患・肺の疾患・鼻の疾患など□
第3週	
第4週	
第5週	代表的な泌尿器系疾患□腎臓の疾患・膀胱の疾患・その他排尿に影響を及ぼす疾患など□
第6週	
第7週	
第8週	代表的な内分泌系疾患□甲状腺の疾患・副腎の疾患・上皮小体の疾患・糖尿病など
第9週	
第10週	(A) 本
第11週	付表的な生殖器系疾患 - 雌雄生殖器の疾患・乳腺の疾患など
第12週	
第13週	
第14週	代表的な循環器系疾患
第15週	弁膜症・心筋症・心奇形・犬糸状虫など
第16週	
第17週	最終評価試験

3. 履修上の注意

- ・教科書の沿って講義を進めるが、写真教材などを使用するためipadを用意する事。
- ・事後学習として授業の復習を必ず行う事。

4. 使用教材(テキスト等)

テキスト:動物看護コアテキスト6巻

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ・課題発表(中間・期末) 70%

_	_	_	4.1
െ	チ	$\boldsymbol{\sigma}$	ш
n	~	(/)	าาเม

講師:動物病院(小動物診療)における獣医師としての実務経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる様々な疾病に関する知識、様々な病態における看護について指導する。

学科コード	N2
-------	----

学科 <專攻>	動物看護師学科		担当者	小山 真央	
科目名	動物臨床栄養学2		必修•選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目		0	

◆到達目標 様々な疾患に対する療法食の特長や効果について理解し、説明できるようになる 食欲のない動物への配慮や工夫を自ら考察することができるようになる

◆概要 療法食の基礎、各疾患における療法食の特長と効果を理解する、食欲低下時のフードの 与え方、強制給餌の方法と注意点

2. 授業内容	(週単位で記入)
第1週	療法食の基礎と取り扱い上の注意点、総合栄養食との相違点
第2週	各疾患の療法食:心臓病
第3週	各疾患の療法食:心臓病
第4週	各疾患の療法食:腎臓病
第5週	各疾患の療法食:腎臓病
第6週	各疾患の療法食:皮膚疾患
第7週	各疾患の療法食:皮膚疾患
第8週	中間試験
第9週	各疾患の療法食:糖尿病
第10週	各疾患の療法食:関節疾患
第11週	各疾患の療法食:肝臓病
第12週	各疾患の療法食:消化器疾患
第13週	強制給餌の方法と注意点、静脈栄養法

第14週	肥満の弊害と減量プログラムの作成
第15週	肥満の弊害と減量プログラムの作成、飼い主への指導のポイント
第16週	まとめ
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト6巻(ファームプレス) その他

5. 単位認定評価方法

評価基準:相対評価

出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度 (積極性等) 10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う

6. その他

臨床現場における入院動物の栄養管理や飼い主様からの食事管理の相談など実務を通し得た知識や 経験をもとに授業を行う

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	上條・得地	
科目名	動物内科看護学Ⅱ-1		必修•選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習棟	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			0

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 動物の臨床看護に必要な知識のを修得する。1年次に習得した、内科看護学の知識をより深く理解し、内科看護学実習 I -3に繋げ実践していく。国家資格習得後の職務範囲に含まれる、採血・ 採尿方法・マイクロチップの挿入についての知識習得も目指す。

◆概要

犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識の向上を目指す。

2. 授業内容 (调単位で記入)

4. 按未内谷 ()	单位(6亿人)
第1週	身体検査
第2週	バイタルサイン フィジカルアセスメント
第3週	
第4週	診療補助に必要な技術 保定法の基礎・応用について
第5週	聴診器や体温計、注射器の適切な取り扱い 輸液に関わる技術
第6週	行うないとは、
第7週	
第8週	中間試験
第9週	検査・処置に必要な技術 マイクロチップの挿入について
第10週	検査・処置に必要な技術
第11週	採血 採尿(穿刺・カテーテル導尿など)
第12週	各種カテーテル挿入
第13週	酸素吸入 マイクロチップ挿入
第14週	
第15週	
第16週	
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

器具を扱う際には、操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員間で指導方針を確認し合い授業に臨む。学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮を怠らないこと。

グループディスカッションを検討しているため、自ら発言を行い授業に挑むこと。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト5.6巻

動物看護実習テキスト

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得すべき内科学について、また臨床 現場で必要となる内科的看護スキルについて実例も交え指導する。

|--|

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	上條・本橋	
科目名	動物内科看護学実習 I -3		必修·選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習棟	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目		0	

◆到達目標 犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学および1年次の動物内科看護学実習 I -1、I -2による実践力の向上を目指す。

◆概要 飼育環境整備、保定法、身体検査、バイタルチェック、採血、採尿、注射、留置針設置、輸液、輸血などについての実践 輸液、輸血等における技術の実践

2. 授業内容 (週単位で記入)

	十世で記入
第1週	·身体検査
第2週	フィジカルアセスメント
第3週	診療補助
第4週	保定法の実践
第5週	聴診器や体温計、注射器の適切な取り扱い 採血・採尿の手順
第6週	薬剤の取り扱い(経口投与・注射の手順)
第7週	輸液の管理・準備
第8週	中間試験
第9週	輸液・輸血に関わる技術
第10週	留置針設置の手順
第11週	輸液ポンプ・シリンジポンプの使用方法 輸液・輸血モニタリング
第12週	
第13週	診療補助 ・診察の準備・衛生管理
第14週	保定法の実践
第15週	
第16週	
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。

学校犬、および預り犬使用に際し、常に犬の状態に注意し、管理する。

5つの自由と動物福祉の視点に立った扱いをするよう徹底する。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト5、6巻(ファームプレス)

動物看護実習テキスト

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数 15% 課題発表(中間・期末)50% 授業態度(積極性等)35%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得しておくべき犬猫の身体検査、輸液療法、調剤の手技等について指導する。実例や経験をもとに、輸液ラインの準備や静脈内留置の取り方などを実際の現場でどのように行っていたかなど体験談を織り交ぜるなどしてイメージしやすいような指導を行う。また、食事の与え方なども実際に行った成功例を説明するなどして指導を行っていく。

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	加藤(実務経験者)	
科目名	動物臨床検査学 I -2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0
1. 授業の到達目	目的と概要				
◆到達目標	様々な臨床検査および生体検査の原理や方法、意義について、安全かつ正確なデータ取得ができるように理解する。 動物看護における、各種検査の内容を理解し、必要に応じて患者指導等行うことができるようにする。				
◆概要		様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。			
2. 授業内容(過					
第1週	X線検査の目的と意 X線の発生、放射線				
第2週	生物に対する、放射線の影響について理解する。 放射線防護、放射線計測法について理解する。				
第3週	X線撮影に必要な器具、およびフィルム処理法、デジタル撮影について理解する。 X線画像の成り立ち、画質の調整法について理解する。				
第4週	透視検査、造影検査について理解する。 画像診断に用いる薬剤(造影剤等)について理解する。				
第5週	X線撮影法、動物の (胸部、腹部、椎体管		ける。(1)		
第6週	X線撮影法、動物の (前肢、後肢領域)	保定について理解す	ける。(2)		
第7週	X線撮影法、動物の (頭部、歯科、その作		ける。(3)		
第8週	X線臨床画像評価法	まについて。			
第9週	内視鏡検査法、内視鏡洗浄法について理解する。 放射線治療について理解する。				
第10週	X線CTおよびMRI検査の概要について理解する。				
第11週	超音波検査の理論および目的と実施方法、保定等について理解する。				
第12週	超音波検査の各種	モード(Bモード、Mモ	ード、ドップラー法等)について理解する	0
第13週		オレセイン試験、眼	底・眼圧検査等につ		
第14週		血圧検査の目的と意 、、検査体位、電極位	義、実施方法につい 江置等)	て理解する。	

第15週	心電図検査および血圧検査の目的と意義、実施方法について理解する。 (心電図波形の評価について)
第16週	細胞診断の目的と方法を理解する。 病理組織検査のための検体取扱い法について理解する。
第17週	病理検体の処理方法について理解する。 (固定、染色の種類等)

3. 履修上の注意

配付資料を中心に講義を行います。単位認定試験は配付資料の内容より出題。 単項目での講義が多いが、前後の授業の関連性が高いので、復習が必要となります。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト6巻

配付資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ・課題発表(中間・期末) 70%

6. その他

講師:放射線技師(ヒト医療における)および動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物病院での臨床検査および生体検査における動物看護師の役割と必要な知識・手技について指導する。

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	本橋 上條	
科目名	動物臨床検査学実	習 I −2	必修·選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	実習棟	前·後期	前期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標

一年次に習得した手技に応用力をつけて正確性、迅速性を身につける。検査の意義を理解し、一人で責任を持った検査結果を出せるよう、繰り返し実習し、また検査結果の意味と関連性臓器について考察できるようにする。常に検査結果を基準と比べ、異常値の場合には速やかに獣医師に報告できるよう一連の流れを習得する。さらにデータの整理・管理として、飼い主に提示できるようにまとめ、検査内容について説明できるよう習得する。検体の保存法、取り扱いと検査後の処理と医療廃棄物の区分が正しくでき、スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得するようにする。

◆概要

糞便検査、血液検査の適切な検体の取り扱い及び手技の習得

2.	授業内容	(週単位で記人)

	年世で記入
第1週	糞便検査概論 健康な便 採便法 必要な器材 検体の取り扱いと保存
第2週	糞便検査 一般性状検査 直接塗抹法
第3週	糞便検査 一般性状検査 直接塗抹法
第4週	糞便検査 一般性状検査 直接塗抹法
第5週	糞便検査 飽和食塩水浮遊法
第6週	糞便検査 飽和食塩水浮遊法
第7週	糞便検査 ドライ標本
第8週	糞便検査 全過程
第9週	中間試験
第10週	血液検査概要(採血部位と駆血、保定方法)
第11週	血液検査概要(検体の取り扱い、抗凝固剤について)
第12週	血液検査 ヘマトクリット管(血漿 PCV TP ミクロフィラリア)
第13週	血液検査 ヘマトクリット管(血漿 PCV TP ミクロフィラリア) 血球計算機
第14週	血液検査 血液塗抹(塗抹作成、染色)
第15週	血液検査 血液塗抹 血小板(形態観察、血小板カウント)
第16週	血液検査 血液塗抹 血小板(形態観察、血小板カウント)
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト6巻 動物看護実習テキスト 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- •出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
- •中間•期末試験70%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での臨床検査の経験を活かし、教科書には載っていないような手技に関するコツや知識、体験談などを織 り交ぜる。また、現場に出て重要なのは、技術はもちろんのこと迅速性も求められるためそういった手技の手本とな るよう授業を行う。

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	福澤	
科目名	動物外科看護学1		必修·選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義∙演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 無菌的処置の重要性が理解できる。タオル・ドレープ類の準備、滅菌法、手術室の器具類の管理など、術前準備について理解し実践できる。

麻酔処置時における動物看護師の役割について理解できる。

術中補助および術後の管理、動物のモニタリングについて理解する。

疼痛管理、退院時の注意点、飼い主への説明事項について理解する。エマージェンシーの原因、病態、動物看護師の役割について理解する。

◆概要 外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。

2. 授業内容 (週単位で記入)

2. JX X 1 1 T	
第1週	動物外科看護技術総論 無菌的処置の重要性 滅菌・殺菌・消毒・洗浄
第2週	手術器具および器械 術前準備 滅菌法
第3週	代表的な手術の種類 手術時の動物のポジショニング 術野の消毒
第4週	麻酔学 麻酔とは 麻酔の基本概念
第5週	
第6週	安全な麻酔のために必要な要素 麻酔・鎮痛の処置に関わる看護師の役割 術前検査
第7週	
第8週	麻酔リスクの評価 ASA分類 麻酔前投与
第9週	中間試験
第10週	
第11週	一
第12週	──術中補助
第13週	直接補助と間接補助
第14週	── ───手術器具
第15週	歯科器具
第16週	── 縫合針と縫合糸
第17週	最終確認試験

3. 履修上の注意

科目としての履修内容がとても多い上に、動物病院実習に向けても非常に必要な知識となるため、復習を必ず行うこと。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト5,6巻 動物看護実習テキスト 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ・試験成績による評価(中間・期末) 70%

6. その他

講師:動物看護師として動物病院で従事した経験から、動物病院における外科手術において動物看護師が必要となる知識・技術を指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス			学科コード	N2	
学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	福澤 得地	
科目名	動物外科看護実習	1	必修·選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0
●到達目標◆概要				·器材の取り扱いと	
▼ 1m ≤	管理・日頃の点検	の看護動物のモニ 多疼痛に関する評価	タリングと麻酔記録。 ・ペインスケール	正常と異常の状態の	
2. 授業内容()	固単位で記入)				
第1週	手術前の動物に必要	要な管理と関わり			
第2週	手術チームの準備	±			
第3週	無菌操作 滅菌・消毒 手術室の環境管理 手術設備・器具の準備と管理				
第4週	術者に必要な管理 オペガウン・グローフ	ブ装着			
第5週	3 73 72 7 2	· 农伯			
第6週					
第7週	手術器具の準備と基外科器具および気管				
第8週	中間試験	31 334 E T MI			
第9週	111日 武海火				
第10週	危険物管理 医療療	ž棄			

第17週 3. 履修上の注意

第11週

第12週

第13週

第14週

第15週

第16週

術前・術中の動物管理と看護

術中の補助 直接補助・間接補助

術前検査 術前食止め 飲水・排泄量管理

術前に必要な処置と対応

麻酔維持期

最終確認試験

動物のモニタリング 生体モニター

取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員に指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱場合には、その状態・状況への配慮が必要。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト6巻 動物看護実習テキスト補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 35%
- ·課題発表(中間·期末) 50%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、実例や経験をもとに、現場をイメージした手術設備や手 術器具の準備を行えるよう指導する。麻酔やモニタリングも実際にモニターを見ながら状態の把握を行うなどして現場 に近づけた環境で指導が行えるように努める。

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	上條/本橋/得地/北	5村
科目名	グルーミング実習応	用	必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	3単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	54コマ	授業場所	実習室	前•後期	前期
企業連携科目	0	実務経験	のある教員等による	授業科目	0

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 皮膚や健康状態を把握して対処ができ、犬の負担を軽減すための作業時間の短縮、綺麗に、丁寧に行うことを目標とする。

◆概要 皮膚状態に合わせたシャンプー、リンス、保湿剤の選択が行えるようになること。 また、担当犬に併せた対応が臨機応変にできること。

2. 授業内容 (週単位で記入)

第1週	グルーミング実習
第2週	グルーミング実習
第3週	グルーミング実習
第4週	グルーミング実習
第5週	グルーミング実習
第6週	グルーミング実習
第7週	グルーミング実習
第8週	グルーミング実習
第9週	グルーミング実習
第10週	グルーミング実習
第11週	グルーミング実習
第12週	グルーミング実習
第13週	グルーミング実習
第14週	グルーミング実習
第15週	グルーミング実習
第16週	グルーミング実習
第17週	グルーミング実習

3. 履修上の注意

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。

学校犬、および預り犬使用に際し、常に犬の状態に注意し、管理する。

5つの自由と動物福祉の視点に立った扱いをするよう徹底する。

グルーミング実習との連携をとり、犬の状態把握に務め、犬に与えるストレスを最小限とする。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト5.6巻 動物看護実習テキスト 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席状況 10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 30%
- •中間•期末試験 60%

6. その他

講師:トリマーおよびしつけインストラクターとしての実務経験者

動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院で看護師が診察台の上でも行うような、基本的なケア(爪切り・足裏バリカン・耳掃除・ブラッシング)の仕方を学生が飼い主様などに指導できるまでのレベルになるよう指導する。基礎に引き続き、薬浴の効果や方法など現場で行うことに、より近づけた指導をする。

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス 学科コード N2 学科 〈専攻〉 動物看護師学科 担当者 上係 科目名 動物看護総合実習 I 必修・選択(注記) 必修 単位数 1単位 授業形態 実習 年次 2年次 総授業数(予定) 17コマ 授業場所 学外 前・後期 前期 企業連携科目 実務経験のある教員等による授業科目 ○ 1. 授業の到達目的と概要 ◆到達目標 動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 獣医師・動物看護師の業務内容(役割の違い、一日の流れ)を把握する。 動物病院の衝とについて、概況や機能を理解できる。 動力病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解できる。 飼主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間に築く上で必要な技術や能力を習得する。 ◆概要 動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。 動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 ② 授業内容 (週単位で記入) 第1週 学外実習 学外実習 学外実習	
本日名	
本日名 動物看護総合実習 I 必修・選択(注記) 必修 単位数 1単位 授業形態 実習 年次 2年次 総授業数(予定) 17コマ 授業場所 学外 前・後期 前期 企業連携科目 東務経験のある教員等による授業科目 ① 1 投業の到達目的と概要 動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。	
単位数 1単位 授業形態 実習 年次 2年次 総授業数(予定) 17コマ 授業場所 学外 前・後期 前期 企業連携科目 実務経験のある教員等による授業科目 ○ 1. 授業の到達目的と概要 動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 獣医師・動物看護師の業務内容(役割の違い、一日の流れ)を把握する。 動物病院の施設について、概況や機能を理解できる。 動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解できる。 飼主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間に築く上で必要な技術や能力を習得する。 動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。 動物病院内での動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 第1週 学外実習オリエンテーション 第2週 学外実習	
総授業数(予定) 17コマ 授業場所 学外 前・後期 前期 企業連携科目 実務経験のある教員等による授業科目 ○ 1. 授業の到達目的と概要 ◆到達目標 動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 獣医師・動物看護師の業務内容(役割の違い、一日の流れ)を把握する。動物病院の施設について、概況や機能を理解できる。動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解できる。飼主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間に築く上で必要な技術や能力を習得する。 ◆概要 動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。動物病院内での動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解する。学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 2. 授業内容 (週単位で記入) 第1週 学外実習オリエンテーション 第2週 学外実習	
企業連携科目 東務経験のある教員等による授業科目 1. 授業の到達目的と概要 ◆到達目標 動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 獣医師・動物看護師の業務内容(役割の違い、一日の流れ)を把握する。 動物病院の施設について、概況や機能を理解できる。 動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解できる。 飼主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間に 築く上で必要な技術や能力を習得する。 ◆概要 動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。 動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 2. 授業内容(週単位で記入) 第1週 学外実習オリエンテーション 第2週 学外実習 第3週 学外実習	見係を
1. 授業の到達目的と概要 ◆到達目標 動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 獣医師・動物看護師の業務内容(役割の違い、一日の流れ)を把握する。 動物病院の施設について、概況や機能を理解できる。 動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解できる。 飼主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間に 築く上で必要な技術や能力を習得する。 ◆概要 動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。 動物病院内での動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 2. 授業内容(週単位で記入) 第1週 学外実習オリエンテーション 第2週 学外実習 第3週 学外実習	目係を
◆到達目標 動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 獣医師・動物看護師の業務内容(役割の違い、一日の流れ)を把握する。 動物病院の施設について、概況や機能を理解できる。 動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解できる。 飼主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間に 築く上で必要な技術や能力を習得する。 ◆概要 動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。 動物病院内での動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 2. 授業内容(週単位で記入) 第1週 学外実習オリエンテーション 第2週 学外実習 学外実習	見係を
動物病院内での動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 2. 授業内容 (週単位で記入) 第1週 学外実習オリエンテーション 第2週 学外実習 第3週 学外実習	
第1週 学外実習オリエンテーション 第2週 学外実習 第3週 学外実習	
第2週	
第3週 学外実習	
第4週 学外実習	
第5週 学外実習	
第6週 学外実習	
第7週 学外実習	
第8週 学外実習	
第9週 学外実習	
第10週 学外実習	
第11週 学外実習	
第15週 学外実習	
第16週 学外実習	
第17週 期末発表·報告	

動物看護総合実習1

3. 履修上の注意

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

看護動物の状態・状況への配慮が必要

常に動物の状態に注意し、管理する

5つの自由と動物福祉の視線に立った扱いをするよう徹底する

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護実習テキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題(報告書等)提出状況と学修成果50% 実習先からの評定書30% をもって評価する

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験

実習受け入れの経験を活かし、実習に対する姿勢、実習態度、実習内容、成果報告等について指導する

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	河野	
科目名	動物薬理学1		必修·選択	選択	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内·普通教室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0

1. 授業の到達目的と概要

- ◆到達目標
- ・薬が効果を表す機序について理解する。
- ・動物看護師の薬の取り扱いについて、法律、投薬法、投薬指導法などを理解する。
- ・各臓器に作用する薬について理解する。
- ◆概要 代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断 や治療に対する実際の使用法を学ぶ。

2. 授業内容(週単位で記入)
第1週	動物薬理学の基礎 獣医臨床における薬物治療の概念
第2週	動物薬理学の基礎薬理作用とその発現機構と生体内での動態の理解
第3週	動物薬理学の基礎 薬物間の相互作用および副作用と中毒について
第4週	動物看護師による薬物の取り扱い 薬物の適切な管理方法を理解する。投薬量の計算ができる
第5週	動物看護師による薬物の取り扱い 各種投薬法を理解し、自宅での飼い主による投薬について指道できる
第6週	神経系に作用する薬物 全身麻酔薬・局所麻酔薬について理解する
第7週	神経系に作用する薬物 鎮痛薬について理解する。運動神経系に作用する薬物について理解する
第8週	神経系に作用する薬物 鎮静薬・抗けいれん薬について理解する 中間試験
第9週	神経系に作用する薬物 問題行動の治療に用いられる薬について理解する
第10週	呼吸器系に作用する薬物 呼吸興奮薬について理解する
第11週	呼吸器系に作用する薬物 鎮咳薬について理解する
第12週	呼吸器系に作用する薬物 気管支拡張薬について理解する
第13週	循環器・泌尿器に作用する薬物 血管拡張薬(降圧剤)について理解する。
第14週	循環器・泌尿器に作用する薬物 心不全治療薬(強心薬)について理解する。
第15週	循環器・泌尿器に作用する薬物 抗不整脈薬について理解する。
第16週	循環器・泌尿器に作用する薬物 利尿薬について理解する。
第17週	前期評価試験

3. 履修上の注意

計算をすることがあるので電卓を準備する事。

4. 使用教材(テキスト等)

テキスト、パワーポイント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ・課題発表(中間・期末) 70%

6. その他

30年以上になる獣医師としての臨床経験から得られた現場で実際に薬を使用する上での注意点まで含めて指導したい。

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	本橋	
科目名	動物繁殖学		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内·普通教室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	5授業科目	0
1. 授業の到達目					
●到達目標	分娩の前兆、生理的	的変化と異常分娩に 方法学ぶことによっ	こおける助産、新生 て知識だけではなく	尾・妊娠・分娩の過れ子管理や、雌雄の生 、看護師が自分のぞ	三殖器の疾患への
◆概要	繁殖に関わる形態	機能を学び、妊娠・	分娩と新生児管理、	遺伝学の基礎知識	を学び習得する
2. 授業内容 (週	- 単位で記入)				
第1週	生殖器の形態と機				
第2週	雌雄の生殖器(構造	ē∙機能∙生理) ————			
第3週	主要な性ホルモン 名称及び役割と働き	き(産生部位・標的器	器官)		
第4週	性成熟と生殖周期 月齢・妊娠期間・季	節周期•完全生殖原	周期·不完全生殖周	期	
第5週	性成熟と生殖周期性周期と膣細胞ス	メアの関係性 顕微	鏡による膣スメアの	観察	
第6週	雌犬の繁殖 発情徴候、排卵・受	胎可能な交配時期			
第7週	雌犬の繁殖 妊娠(着床・胎盤)・	分娩(徴候・経過)・	出産(準備・母体の	看護・産子の看護)	
第8週	雌犬の繁殖 性ホルモン濃度の	推移・妊娠期の異常	C·助産		
第9週	中間試験				
第10週	雌犬の繁殖 帝王切開・新生児の	D管理·母犬の管理			
第11週	雌猫の繁殖 発情の特徴・排卵と	<u>-</u> 交配∙妊娠期間∙偽	好娠		
第12週	雌猫の繁殖 性ホルモン濃度の	推移・分娩徴候・新生	生子の管理		
第13週	雌猫の繁殖 性ホルモン濃度の	推移•分娩徴候•新	生子の管理		
第14週	犬猫の繁殖の人的 人工授精・発情誘起		雌性避妊(不妊手術	析·発情抑制)·雄性:	避妊(去勢手術)
第15週	遺伝学の基礎と遺 遺伝様式(顕性、潜				
第16週	遺伝学の基礎と遺 遺伝疾患、発生異常				
第17週	期末試験				

教科書だけではなく、イラストや写真、その他資料を使いながら行っていく。 生殖器の構造をはじめとして覚えることが多数あるため事後学習を怠らないよう務める。 実習棟での授業もあるため指示があった場合きちんと準備をすること アクセサリー類は必ず外すこと 髪型や化粧等が適切ではない場合出席を認めない

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト4巻 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
- •中間•期末試験70%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験者

教科書に載っていることだけではなく現場での経験を活かした授業を展開していく。

講義がメインとなるが、検査や助産など看護師も立ち会う場面での立ち振る舞いなども指導していく。

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	浅野 遠藤	
科目名	動物臨床看護学各語	論3	必修·選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0
1. 授業の到達目 ◆到達目標			予防について理解すん	3 .	
◆概要			こよって引き起こされ 持つ動物にどのよう ^っ		
2. 授業内容(過	単位で記入)		* o + b = 100 00 o		
第1週	代表的な眼疾患の	R疾患の検査法・眼 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	球の疾患・副眼器の	疾患なと	
第2週					
第3週	がん疾患と担がん動	か物について			
第4週					
第5週	造血器・免疫介在性 白血球に影響を及		こ影響を及ぼす疾患	・貧血を起こす疾患	
第6週					
第7週	消化器疾患、消化器付属器疾患 口腔疾患、上部消化器疾患、下部消化器疾患、肝疾患、膵疾患など				
第8週					
第9週					
第10週	神経疾患 神経系に影響を及	ばす疾患。水頭症、	椎間板ヘルニアなど	- o	
第11週					
第12週	筋•整形外科 筋肉	骨格に影響を及ぼ	ず疾患。咀嚼筋炎、		
第13週	70 TE 10 71 14 70 14 15	H 1010-1016			
第14週	リハビリテーション				
第15週	代表的な皮膚疾患「	蔵込性疾患。マレノ	ノギー性疾患 ・ その他	1の皮膚疾患かど	
第16週	174以176以肩(大忠し	―心木口次心・ノレハ	とう 正次志での他	547以肩7天応46	
第17週	最終評価試験				

3. 履修上の注意

- ・教科書の沿って講義を進めるが、写真教材などを使用するためipadを用意する事。 ・事後学習として授業の復習を必ず行う事。

4. 使用教材(テキスト等)

テキスト:動物看護コアテキスト6巻

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ·課題発表(中間·期末) 70%

6. その他

講師:動物病院(小動物診療)における獣医師としての実務経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる 様々な疾病に関する知識、様々な病態における看護について指導する。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	腰原	
科目名	産業動物学·実験動物学2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	普通教室	前•後期	後期
		実務経験のある教員等による授業科目			0

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 <u>産業動物学</u>

家畜の生態や疾病の基本を学び、日本の畜産業の現状を知る事を目標とする。

実験動物学

実験動物の目的、生体の特徴やそのコントロールについて理解し、治療法の確立や薬の開発において実験動物が必要とされている背景と現状を知る事を目標とする。

動物看護師の活躍する分野として、産業動物分野への拡がりが期待されている事や、動物福祉等 の正しい知識を持った者が家畜飼育者や実験動物飼育者にも求められるようになっているため、そ の分野での社会的認知度を得られる立場となれる事を目指す。

◆概要

産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業などの社会との関わりについて学ぶ。 実験動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物との関わりについて学ぶ。

産業動物や実験動物における動物福祉について学ぶ。

統一認定試験の出題傾向に合わせた内容を学習する。

2. 授業内容(
第1週	日本の酪農業と牛肥育業
第2週	日本の養豚業
第3週	日本の養鶏業
第4週	主な畜産物・世界の畜産業
第5週	産業動物学 最終評価試験
第6週	実験動物学の基礎 実験動物の目的と意義
第7週	実験動物の動物種・品種・系統・
第8週	
第9週	代表的な実験動物の飼育管理と繁殖法
第10週	
第11週	実験動物の遺伝的制御
第12週	
第13週	実験動物の微生物学的制御
第14週	
第15週	実験動物の環境制御
第16週	疾患モデル動物について
第17週	最終評価試験
3. 履修上の注意	

・事後学習として授業の復習を必ず行う事。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト4 動物の行動と健康管理(ファームプレス社) パワーポイント

5. 単位認定評価方法

評価基準:相対評価

出席状況、授業態度、中間・期末試験結果を総合して評価する

6. その他

講師:動物病院(小動物診療・大動物診療)における獣医師としての実務経験者

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビ	ジネスカレッジ	ンラバス		学科コード	N2
学科 <専攻>	動物看記	養師学科	担当者	梶ヶ谷	
科目名	野生動物学		必修・選択	必修	
単位数	1	授業形態	講義	年次	2
総授業数 (予定)	17	授業場所	普通教室	前•後期	後期

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 野生動物の分類と生物多様性、鳥獣害の現状と意義、絶滅危惧種についての理解、外来生物と 生態系への影響、展示動物と動物園の役割と意義等について理解する。

◆概要 野生動物と展示動物に関する基礎的な知識を現実を通して学ぶ。正解の得られない世界でもある のでワークショップという議論型式を採用しながら理解を深めてもらいたい。

2. 授業内容 (週単位で記入)

第1週 野生動物の分類、生物多様性

第2週 ワークショップ

第3週 鳥獣害と対策

第4週 ワークショップ

第5週 絶滅危惧種と保全

第6调 ワークショップ

第7週 外来生物と生態系

第8週 ワークショップ

第9週 野生動物救護

第10週 ワークショップ

第11週 展示動物と動物園1

第12週 展示動物と動物園2

第13週 ワークショップ

第14週 動物園における動物の管理

第15週 動物園における施設管理

第16週 ワークショップ

第17週 最終評価試験

3. 履修上の注意

法律や社会的問題についても扱うので新聞等の情報も広く学んでおくこと。

4. 使用教材 (テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻 比較動物学 第3章・第4章 野生動物、展示動物

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出席状況および筆記試験結果の総合評価

6. その他

講師:現職は日本獣医生命科学大学名誉教授。同大学獣医学部獣医保健看護学科(動物看護師養成学科)及び獣医学科において形態学系と病理学系、野生動物学系の教育実務を経験してきた。獣医師・獣医学博士。

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	上條・本橋	
科目名	動物内科看護学実習 Ⅱ -1		必修•選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習棟	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験の	のある教員等による	る授業科目	0

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学および1年次の動物内科看護学実習 I による実践力の向上を目指す。

◆概要 飼育環境整備、保定法、身体検査、バイタルチェック、採血、採尿、注射、留置針設置、輸液、輸血などについての実践 輸液、輸血等における技術の実践

2 授業内容 (调単位で記入)

第1週	白什松木
第2週	身体検査 フィジカルアセスメント
第3週	
第4週	診療補助 保定法の実践
第5週	聴診器や体温計、注射器の適切な取り扱い
第6週	│ 採血·採尿の手順 │ 薬剤の取り扱い (経口投与·注射の手順)
第7週	案所の取り扱い (経口投与・注射の手順) 輸液の管理・準備
第8週	中間試験
第9週	+A: 本 +A +A - 日 - - - - - - - -
第10週	輸液・輸血に関わる技術 留置針設置の手順
第11週	輸液ポンプ・シリンジポンプの使用方法
第12週	輸液・輸血モニタリング
第13週	診療補助
第14週	│ 診察の準備·衛生管理 ├ 保定法の実践
第15週	床た仏の天成
第16週	
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。

学校犬、および預り犬使用に際し、常に犬の状態に注意し、管理する。

5つの自由と動物福祉の視点に立った扱いをするよう徹底する。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト5、6巻(ファームプレス)

動物看護実習テキスト

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数 15% 課題発表(中間·期末)50% 授業態度(積極性等)35%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得しておくべき犬猫の身体検査、輸液療法、調剤の手技等について指導する。実例や経験をもとに、輸液ラインの準備や静脈内留置の取り方などを実際の現場でどのように行っていたかなど体験談を織り交ぜるなどしてイメージしやすいような指導を行う。また、食事の与え方なども実際に行った成功例を説明するなどして指導を行っていく。

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	上條	
科目名	動物内科看護学Ⅱ	-2	必修•選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習棟	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0

1. 授業の到達目的と概要

動物の臨床看護に必要な知識のを修得する。これまでに習得した、内科看護学の知識をより深く ◆到達目標 理解し、内科看護学実習Ⅱ-1に繋げ実践していく。

◆概要 犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識の向上を目指す。

2. 授業内容 (调単位で記入)

	一十四~607 /
第1週	が変に関わる共体
第2週	対要に関わる技術 」薬の処方
第3週	内服薬・外用薬
第4週	薬浴の実施についての理解
第5週	輸液に関わる技術
第6週	輸液剤の特性や適応 器材に関する知識
第7週	40 17 天 ソ る 和 調
第8週	中間試験
第9週	
第10週	輸血に関わる技術
第11週	輸血の適応・リスク
第12週	クロスマッチ試験について 血液型について
第13週	血液空に がく
第14週	
第15週	m3/A,10
第16週	
第17週	期末試験

3. 履修上の注意

器具を扱う際には、操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員間で指導方針を確認し合い授業に臨 む。学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮を怠らないこと。

グループディスカッションを検討しているため、自ら発言を行い授業に挑むこと。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト5.6巻 動物看護実習テキスト

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得すべき内科学について、また臨床 現場で必要となる内科的看護スキルについて実例も交え指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	福澤	
科目名	動物外科看護学2		必修·選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義·演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 麻酔処置時における動物看護師の役割について理解できる。

術中補助および術後管理、動物のモニタリングについて理解する。

疼痛管理、ペインスケールについて理解できる。

退院時の注意点、飼い主への説明事項について理解する。

エマージェンシーの原因、病態、動物看護師の役割について理解する。

◆概要
外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統

的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。

救急救命時における病態、処置、動物看護師の役割について学ぶ。

2. 授業内容 (週単位で記入)

第1週	術後管理 - 麻酔覚醒と覚醒後の動物のモニタリング
第2週	
第3週	
第4週	創傷管理 ドレーン 包帯法
第5週	トレーン・世帯法
第6週	褥瘡予防 退院時の注意点
第7週	20元時の注意点
第8週	中間試験
第9週	エマージェンシー 原因と病態
第10週	
第11週	
第12週	BLS ALS
第13週	
第14週	CPR CPCR
第15週	
第16週	
第17週	最終確認試験

3. 履修上の注意

科目としての履修内容がとても多い上に、動物病院実習に向けても非常に必要な知識となるため、復習を必ず行うこと。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト5,6巻

動物看護実習テキスト

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 30%
- ・試験成績による評価(中間・期末) 55%

6. その他

講師:動物看護師として動物病院で従事した経験から、動物病院における外科手術や救急疾患において動物看護師が必要となる知識・技術を指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	福澤 上條	
科目名	動物外科看護学実習2		必修·選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0

1. 授業の到達目的と概要

◆概要 術前の準備;看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解。術前器具・器材の取り扱いと 管理・日頃の点検

術中の補助;麻酔下の看護動物のモニタリングと麻酔記録。正常と異常の状態の理解

術後の管理;術後の疼痛に関する評価・ペインスケール。看護動物の継続的な観察と看護の実践

2. 授業内容 (週単位で記入)

2. 汉本门台	
第1週	術中麻酔に関する知識
第2週	──麻酔モニタリング 生体モニター
第3週	- 土 /
第4週	導入~覚醒
第5週	
第6週	術後管理
第7週	
第8週	衛生管理
第9週	
第10週	→ 与共注 教急教命法
第11週	──エマージェンシーの原因・病態 ──BLS ALS
第12週	BLS ALS
第13週	
第14週	
第15週	
第16週	
第17週	最終確認試験

3. 履修上の注意

取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員に指示に従うこと。

学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱場合には、その状態・状況への配慮が必要。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト6巻 動物看護実習テキスト 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 35%
- -課題発表(中間-期末) 50%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、実例や経験をもとに、麻酔や術中モニタリングについて 指導する。また、救急救命時における動物看護師の役割についても現場に近づけた環境で指導が行えるように努め る。

学科コード N2

W = 1			1			
学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	本橋		
科目名	動物臨床検査学実	習Ⅱ-1	必修•選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次	
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	実習棟	前•後期	後期	
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目					
1. 授業の到達目 ◆到達目標 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	的と概要 検査の意義を理解し、一人で責任を持った検査結果を出せるよう、繰り返し実習し、また検査結果の意味と関連性臓器について考察できるようにする。常に検査結果を基準と比べ、異常値の場合には速やかに獣医師に報告できるよう一連の流れを習得する。さらにデータの整理・管理として、飼い主に提示できるようにまとめ、検査内容について説明できるよう習得する。検体の保存法、取り扱いと検査後の処理と医療廃棄物の区分が正しくでき、スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得する。					
			,,,, (1 to [XIII. = 00 t)		7H 7	
2. 授業内容 (週	単位で記入)					
第1週	血液検査 塗抹	白血球系 左方科	多動			
第2週	血液検査 塗抹	白血球系				
第3週	血液検査 塗抹	白血球系 百分	比			
第4週	血液検査 塗抹	異常な血球				
第5週	血液検査 血液化	と学スクリーニング村	负 查			
第6週	血液検査 血液化	と学スクリーニング 村	 			
第7週	中間試験					
第8週	血液検査 CBC	血液化学スクリーニ	ニング まとめ			
第9週	血液検査 凝固系	Ŕ				
第10週		マッチ試験等				
第11週		プ法 被毛 ウッド灯	真菌培養			
第12週	皮膚検査 病変の 皮膚掻把 スタンフ	種類と検査法 [『] 法 被毛 ウッド灯	真菌培養			
第13週	外耳道検査 耳	鏡 耳垢検査				
第14週	眼科検査 眼圧	シルマー	フルオレセイン染色			
第15週	心電図検査					
第16週	超音波検査 概認	検査準備	ポジショニング	操作 取り扱い	 法	
第17週	期末試験					
3. 履修上の注意						

取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト6巻 動物看護実習テキスト 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
- •中間•期末試験70%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での臨床検査の経験を活かし、教科書には載っていないような手技に関するコツや知識、体験談などを織り交ぜる。また、現場に出て重要なのは、技術はもちろんのこと迅速性も求められるためそういった手技の手本となるよう授業を行う。

学科コード N2

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	福澤	
科目名	トレーニング実習1		必修·選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前•後期	前期
企業連携科目		実務経験	のある教員等による	授業科目	0

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 犬と飼い主の理想的な関係構築のため、犬のトレーニングに必要な学習理論の理解、正の強化と 負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。

また、犬と関わる上で必要な事や必要な物を理解するとともに、犬を取り巻く環境について適切にコントロールできるようになる。

◆概要 犬のトレーニングの知識習得および実技を行う

実際の道具やデモンストレーションを見たり、実践したりする

2. 授業内容 (週	
第1週	しつけ学 犬の観察の必要性と重要性 問題行動とは 実習中の犬の管理法 必要な用具
第2週	より良い共同生活のために 犬の欲求を満たす 理想的な犬との関係 リーダー アルファ 上下関係 主従関係 親子関係
第3週	犬のトレーニング法 強制法 陽性強化法 強化子
第4週	犬具紹介 慣らし方 リードワーク(持ち方 テンション) 報酬の使い方
第5週	人の"手"の持つ意味 イメージ マズルコントロール アルファロール ハンドフィーディング コング ほめ方
第6週	トレーニング理論 古典的条件付け 声 クリッカー 遊びの重要性 遊び方
第7週	トレーニング理論 古典的条件付け 声 クリッカー 遊びの重要性 遊び方
第8週	トレーニング理論 オペラント 連続強化 誘導 グーの手についてくる マグネット おいで
第9週	トレーニング理論 オペラント 連続強化 誘導とターゲットタッチ おいで
第10週	トレーニング理論 オペラント 部分強化 おすわり 誘導 ハンドシグナル
第11週	トレーニング理論 オペラント 復習 おすわり ハンドシグナル つぎ込み
第12週	トレーニング理論 オペラント 復習 おすわり 声符
第13週	しつけに必要な理論 馴化 鋭敏化 脱感作 般化・・・) おすわり ふせ たて 様々な姿勢からの誘導
第14週	しつけに必要な理論 馴化 鋭敏化 脱感作 般化・・・) おすわり ふせ たて 様々な姿勢からの誘導
第15週	犬のストレス ボディランゲージ カーミングシグナル 転位行動 転嫁行動 ふせ・たて 誘導⇒ハンドシグナル⇒声符 部分強化
第16週	犬のストレス ボディランゲージ カーミングシグナル 転位行動 転嫁行動 ふせ・たて 誘導⇒ハンドシグナル⇒声符 部分強化

期末試験

第17週

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること。 アクセサリー類は必ず外すこと。

挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。

生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。

学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。

国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト4巻

実習テキスト

補助資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30%
- •中間•期末試験 60%

6. その他

講師:JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	加藤 博史	
科目名	動物リハビリテーション学実習		必修·選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			0

1. 授業の到達目的と概要

- ◆到達目標 幼齢動物、高齢動物を含んだ全年齢の動物に対する、リハビリテーションの意義と正しい実施方法 および評価方法を理解する。
 - 代替医療を含む東洋医学アプローチ法について理解を深める。
- ◆概要 様々なリハビリテーションの原理や方法、意義について学び、治療機器等の正しい扱い方、所見の 記録方法を習得する。

2. 授業内容((週単位で記入)
第1週	動物リハビリテーションの意義および概要について理解する。
第2週	動物リハビリテーションに必要な解剖の基礎および骨格連携について理解する。
第3週	動物リハビリテーションに必要な解剖の基礎および、前肢後肢の連携について理解する。
第4週	創傷治療の基本と運動器障害からの回復について理解する。
第5週	廃用と不動化および再稼働に対する骨格組織の変化について理解する。
第6週	病態の評価と身体計測の方法および記録方法について理解する。
第7週	歩様検査について、検査方法および評価方法について理解する。
第8週	整形外科学的検査について、検査方法および評価方法について理解する。
第9週	神経学的検査について、検査方法および評価方法について理解する。
第10週	理学療法(徒手療法)について理解する。①
第11週	理学療法(徒手療法)について理解する。②
第12週	陸上運動療法の方法と治療効果について理解する。
第13週	水中運動療法の方法と治療効果について理解する。
第14週	物理療法について、使用器具の特性および治療効果の特徴を理解する。

第15週	東洋医学の概要について理解する。 東洋医学における代表的な概念について理解を深める。
第16週	東洋医学における、診断および治療法について理解を深める。 (東洋医学的診断法、経絡、経穴、漢方治療等)
第17週	最終確認試験

3. 履修上の注意

配付資料を中心に講義を行います。単位認定試験は配付資料の内容より出題。 単項目での講義が多いが、前後の授業の関連性が高いので、復習が必要となります。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト6巻

配付資料

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ·課題発表(中間·期末) 70%

6. その他

講師:放射線技師(ヒト医療における)および動物病院での動物看護師(リハビリ指導)およびペット東洋医学アドバイザーとしての実務経験を生かし、動物病院でのリハビリテーションの知識・手技について指導する。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	福澤 本橋	
科目名	動物医療コミュニケーション I		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前•後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			0

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 動物病院業務の様々な場面で必要となるコミュニケーションにおける知識と技法を習得する。 ホスピタリティ精神を理解し、飼い主からの信頼を得るために身だしなみの重要性を自覚し実践できる。事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーション の基礎について理解する。

◆概要

- ・日常健康管理にかかわる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。
- ・言葉遣いと話し方・表情・立ち位置・立ち振る舞いなど、接客時の基本身につけコミュニケーション能力を上げるための基本的な接遇トレーニングを行う。また、看護動物の安全・衛生に配慮した応対ができるよう、受付時のカウンターを挟んだ高頻度業務を実技で展開し、グループ運営、段取り、プレゼンテーションの意識を高め、スタッフコミュニケーションを想定した能力を養う。(飼い主様に対して問診を行い、動物看護師としての対応を身につけ、実際のクライアントエデュケーションへつなげていく)・実習犬を用い、臨床現場により近い形での各種検査の実施。臨床検査の応用。

2. 授業内容(词	<u> </u>				
第1週	クライアントエデュケーション概論				
第2週	接遇とホスピ゚タリティ 社会人コミュニケーション能力の基礎				
第3週	飼い主のニーズを知る 様々な状況におけるコミュニケーション(待合室・受付・診察室)				
第4週	適正飼養について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主に提供できる				
第5週	衛生管理と人獣共通感染症予防				
第6週	動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する				
第7週	病気の適切な予防法(予防接種、フィラリア予防、ノミ・ダニ予防、歯科予防、 去勢・不妊手術など)について理解する				
第8週	Asi i A i in desira a cariff s				
第9週					
第10週	在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解するル&健康チェック				
第11週	飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する 獣医療面接のプロセス(導入、稟告、質問、傾聴、要約、確認、終結など)について理解する				
第12週					
第13週	チーム獣医療に関するコミュニケーション技能(報告・連絡・相談)について理解する				
第14週	受付業務(診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など)について理解する				
第15週	物品購入や管理について理解する				
第16週	ペット保険について理解する				
第17週	最終確認試験				
3. 履修上の注意					

学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 クライアントへの礼儀を意識すること。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 動物看護実習テキスト 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 40%
- ·課題発表(中間·期末) 50%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が身につけるべきマナー、ホスピタリティ精神、コミュニケーションスキル等について指導する。実際に現場で起こりうる状況などを想定した接遇トレーニングを行う。また、問診の取り方のポイント(細かい情報の聞き出し方など)の指導含め、現場に近い雰囲気で行えるよう取り組みをする。また、お預かりしている動物に対して迅速な身体検査や観察の方法など動物の取り扱い方も細かく指導を入れていく。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

専門学校未来ビ	ジネスカレッジ シラ	バス		学科コード	N2		

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	上條			
科目名	動物看護総合実習Ⅱ-1		必修・選択(注記)	必修			
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次		
総授業数(予定) 企業連携科目	17コマ	授業場所	学外	前・後期	後期		
企業連携科目 実務経験のある教員等による授業科目 O 1. 授業の到達目的と概要							
◆到達目標	動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 獣医師・動物看護師の業務内容(役割の違い、一日の流れ)を把握する。 動物病院の施設について、概況や機能を理解できる。 動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解できる。 飼主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間関係を 築く上で必要な技術や能力を習得する。						
◆概要	動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。 動物病院内での動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。						
2. 授業内容 (週単位で記入)							
第1週	学外実習オリエンテーション						
第2週	学外実習						
第3週	学外実習						
第4週	学外実習						
第5週	学外実習						
第6週	学外実習						
第7週	学外実習						
第8週	学外実習						
第9週	学外実習						
第10週	学外実習						
第11週	学外実習						
第12週	学外実習						
第13週	学外実習						
第14週	学外実習						
第15週	学外実習						
第16週	学外実習						
第17週	期末発表・報告						
3. 履修上の注意	ā						

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

看護動物の状態・状況への配慮が必要

常に動物の状態に注意し、管理する

5つの自由と動物福祉の視線に立った扱いをするよう徹底する

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護実習テキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題(報告書等)提出状況と学修成果50% 実習先からの評定書30% をもって評価する

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験

実習受け入れの経験を活かし、実習に対する姿勢、実習態度、実習内容、成果報告等について指導する